

2. 調査結果詳細

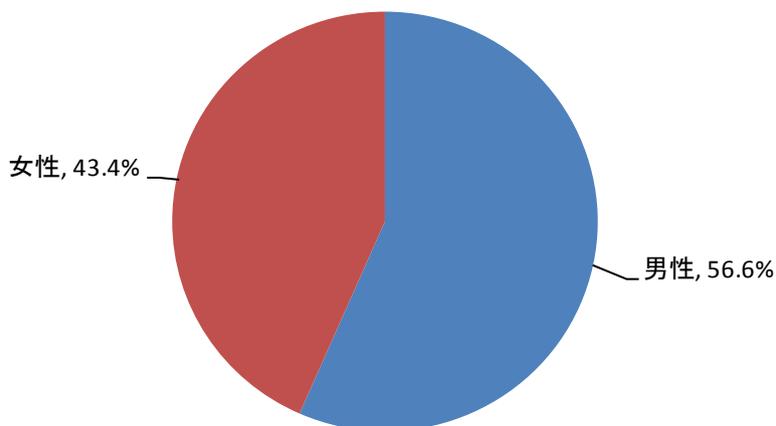
(1) 調査実施概要

調査方法	インターネットリサーチ大手のマクロミルを活用、愛知県内の登録モニタ（68,906人／2014年9月1日現在）を対象として調査を行う。				
調査対象	登録者のうち、以下の条件を満たす人をスクリーニングして調査対象として選定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会社員、自営業、自由業、パート・アルバイトである人 ・ 愛知県、岐阜県、三重県、静岡県居住者のうち愛知県で働く人 ・ 65歳以下の人 				
調査期間	平成26年11月28日～11月29日				
調査票回収数	2,000サンプル（実際の回収数は2,064票）				
サンプル抽出方法	平成24年就業構造基本調査による男女別による雇用形態の構成比に応じて回答者数を配分。 ただし、配分が100人に満たない雇用者属性については、最低サンプル数を100人として、残数を他の属性の構成比で配分。				
		正社員	パート・アルバイト	契約社員・嘱託	派遣社員
	男	900	117	72	44
女	345	414	52	56	

(2) 回答者の属性

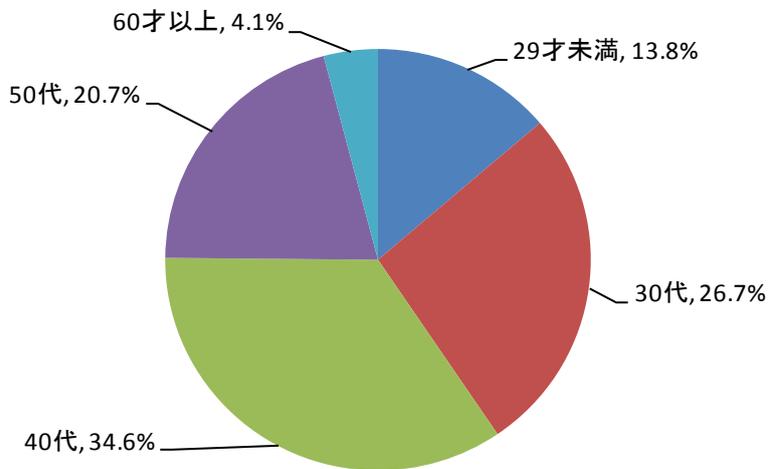
①性別（n=2,064）

- ・ 「男性」が56.6%で、「女性」の43.4%を13.2ポイント上回る。



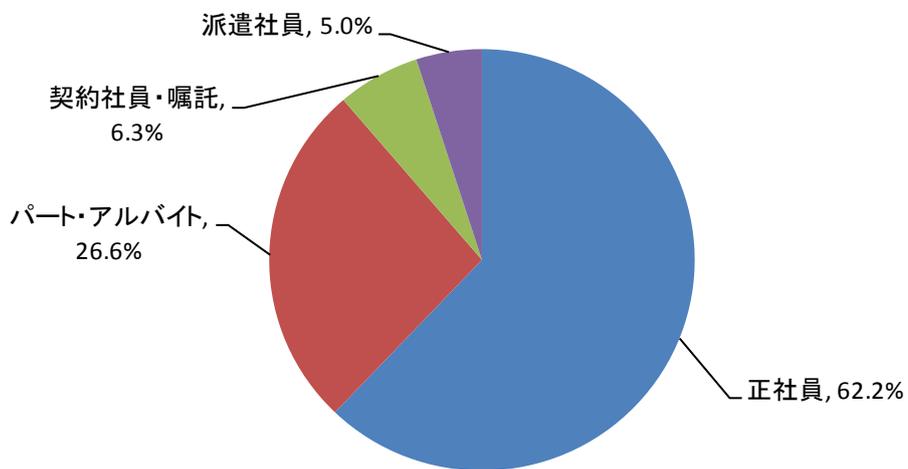
②年齢 (n=2,064)

- ・ 「40代」が34.6%で最も多く、次いで、「30代」が26.7%となり、この2つの年齢階層で全体の6割以上を占める。



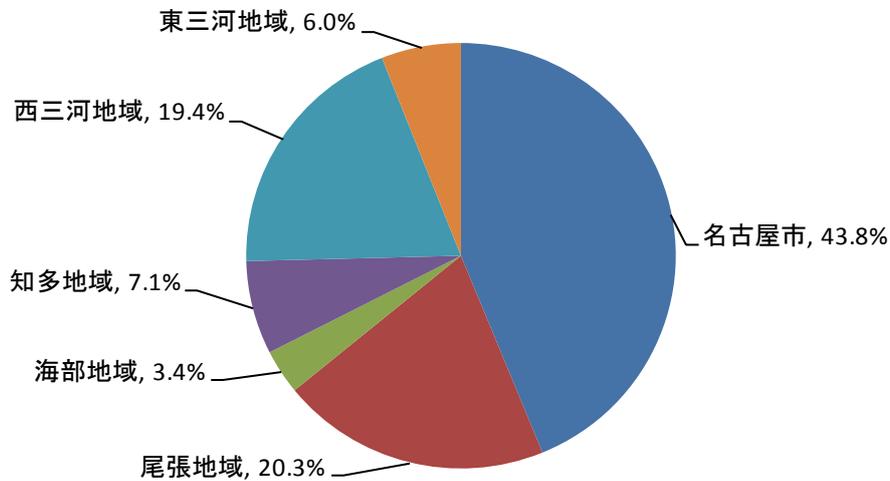
③あなたの現在の就業形態 (n=2,064)

- ・ 「正社員」が62.2%を占めており、以下、「パート・アルバイト」が26.6%、「契約社員・嘱託」が6.3%、「派遣社員」が5.0%となる。



④あなたの主な勤務地 (n=2,064)

- ・ 「名古屋市」が43.8%で最も多く、次いで、「尾張地域」が20.3%、「西三河地域」が19.4%となり、これら3地域で全体の8割以上を占める。



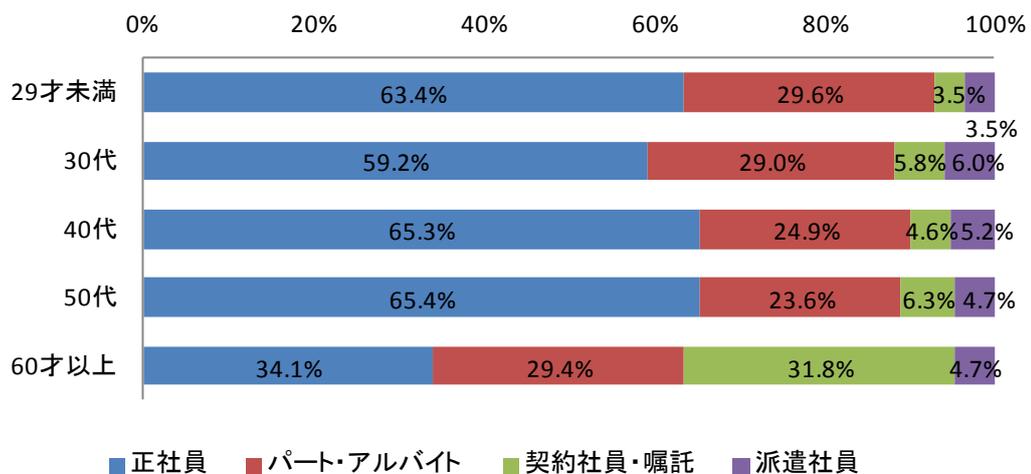
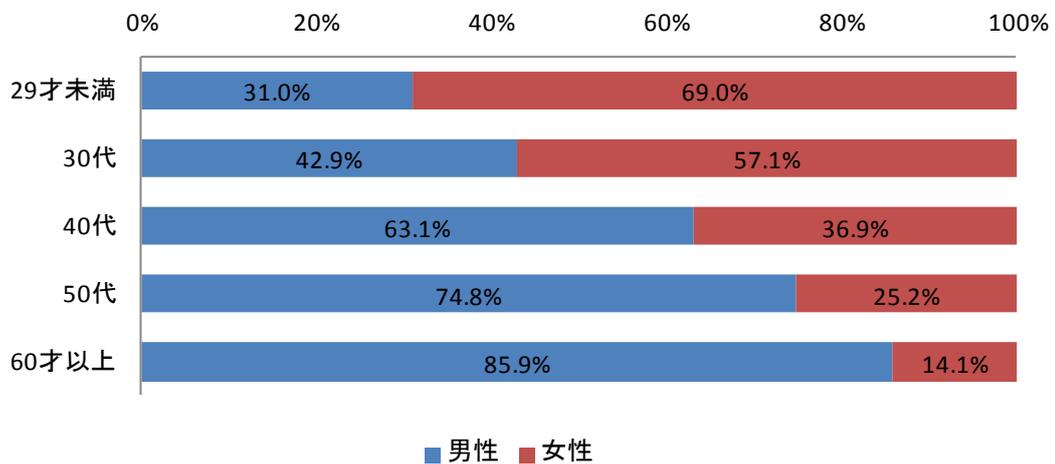
※派遣社員など、派遣元と派遣先で勤務地が異なる場合は、派遣先を回答

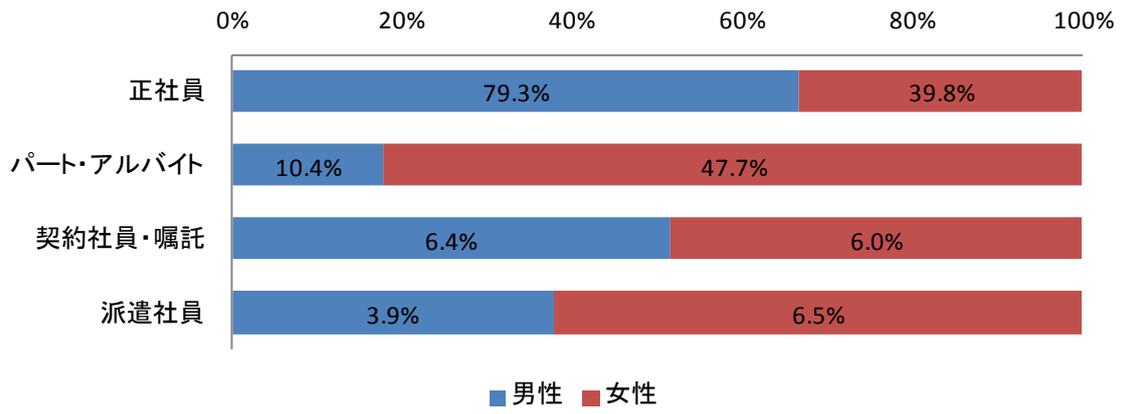
各地域に該当する市町村

地域名	対象市町村
名古屋市	名古屋市
尾張地域	一宮市、瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町
海部地域	津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
西三河地域	岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町
東三河地域	豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村

【属性による構成】

- ・ 回答者の属性別構成で特徴的なものを取り上げると、年齢別による性別は、「29才未満」にて「女性」が69.0%であるが、年齢が上がるにつれて「男性」の割合が高まり、「60才以上」では「男性」が85.9%を占める。
- ・ 年齢別による就業形態は、「29才未満」から「50代」では59.2%～65.4%の間にあり、傾向は似ているものの、「60才以上」では34.1%と大きく異なる。「パート・アルバイト」がいずれの年代でも20%台であるのに対して、「60才以上」は「契約社員・嘱託」が31.8%あり、他の年齢階層と比べて非常に高い。
- ・ 就業形態別による性別は、「男性」の割合が最も高いのが「正社員」で72.3%、以下、割合が高い属性から「契約社員・嘱託」が58.1%、「派遣社員」が44.2%、「パート・アルバイト」が22.1%の順となる。



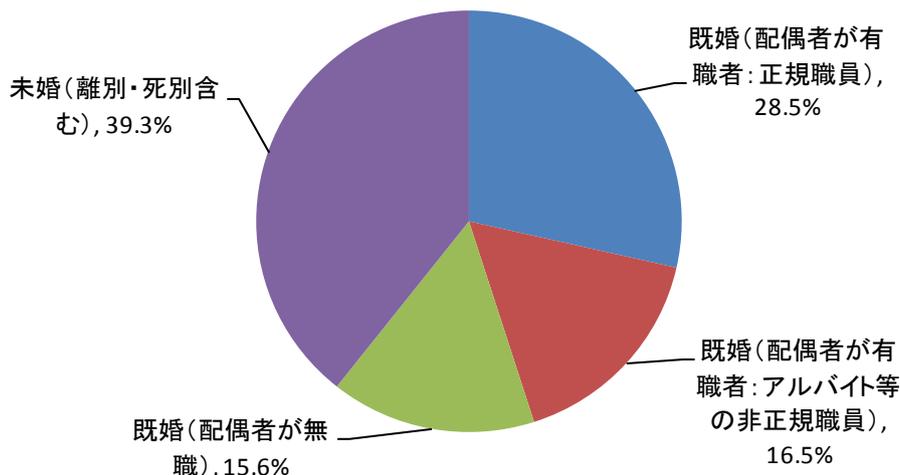


(3) 家庭

①結婚の有無と配偶者の就業状況

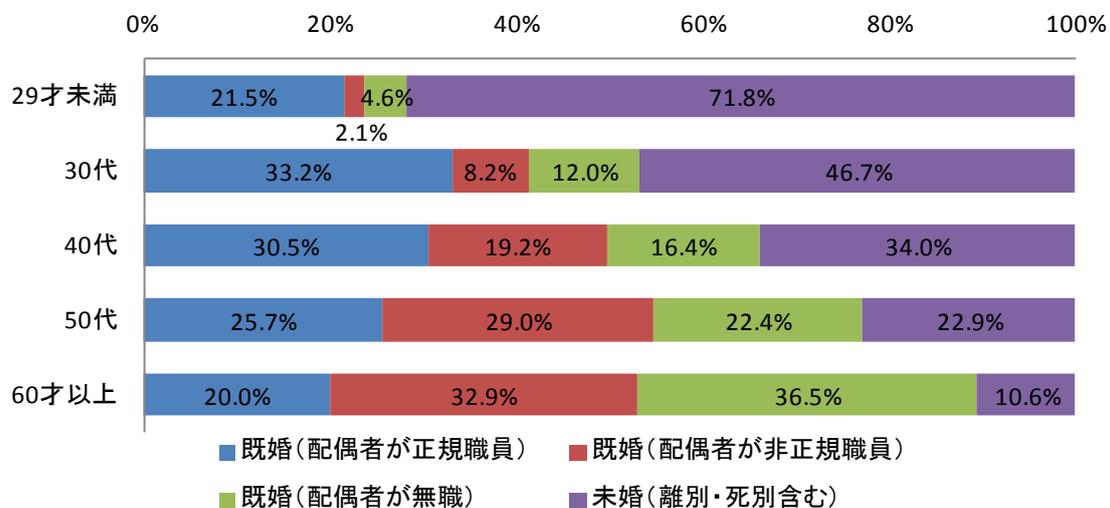
Q1 あなたの結婚の有無と配偶者の就業状況について、当てはまるものを選んでください。(n=2,064)

- ・ 「未婚(離別・死別含む)」が39.3%で最も多く、次いで、「既婚(配偶者が正規職員)」が28.5%となる。



【年齢階層別】

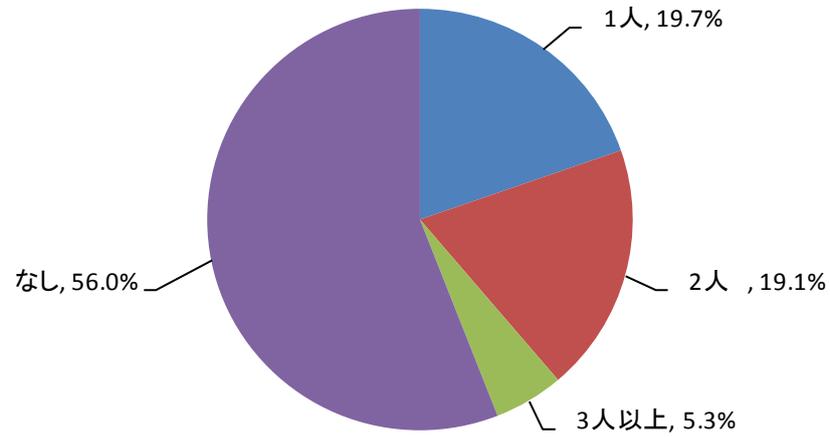
- ・ 「29才未満」では、「未婚(離別・死別含む)」が71.8%を占めるが、「30代」で46.7%と半数を下回り、年齢が上がるにつれて、その割合は徐々に低下する。
- ・ 一方、「60才以上」では、「既婚(配偶者が無職)」が36.5%で最も多く、次いで、「既婚(配偶者が正規職員)」が32.9%となる。



②扶養対象となる子どもの数

Q2 あなた（もしくはあなたの配偶者）の扶養対象となる子どもの数について、当てはまるものを選んでください。（n=2,064）

- ・ 「なし」が56.0%で最も多く、「1人」と「2人がともに19%台となっている。



※同居の子どものみに限定

(4) 現在の就業形態

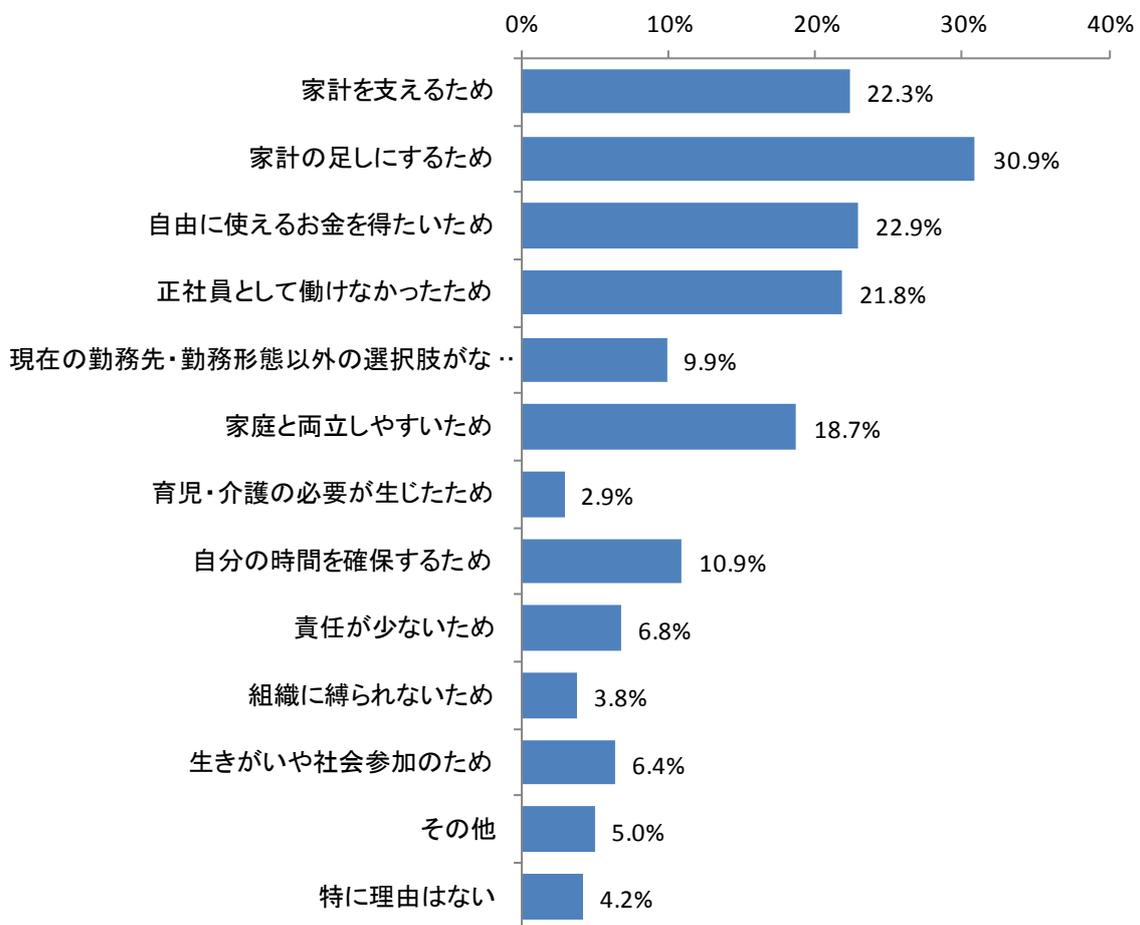
① 選択した理由

(現在の職業形態が「パート・アルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」の人に限定)

Q3 あなたが現在の就業形態を選択した理由について、当てはまるものを2つまで選んでください。

(n=781)

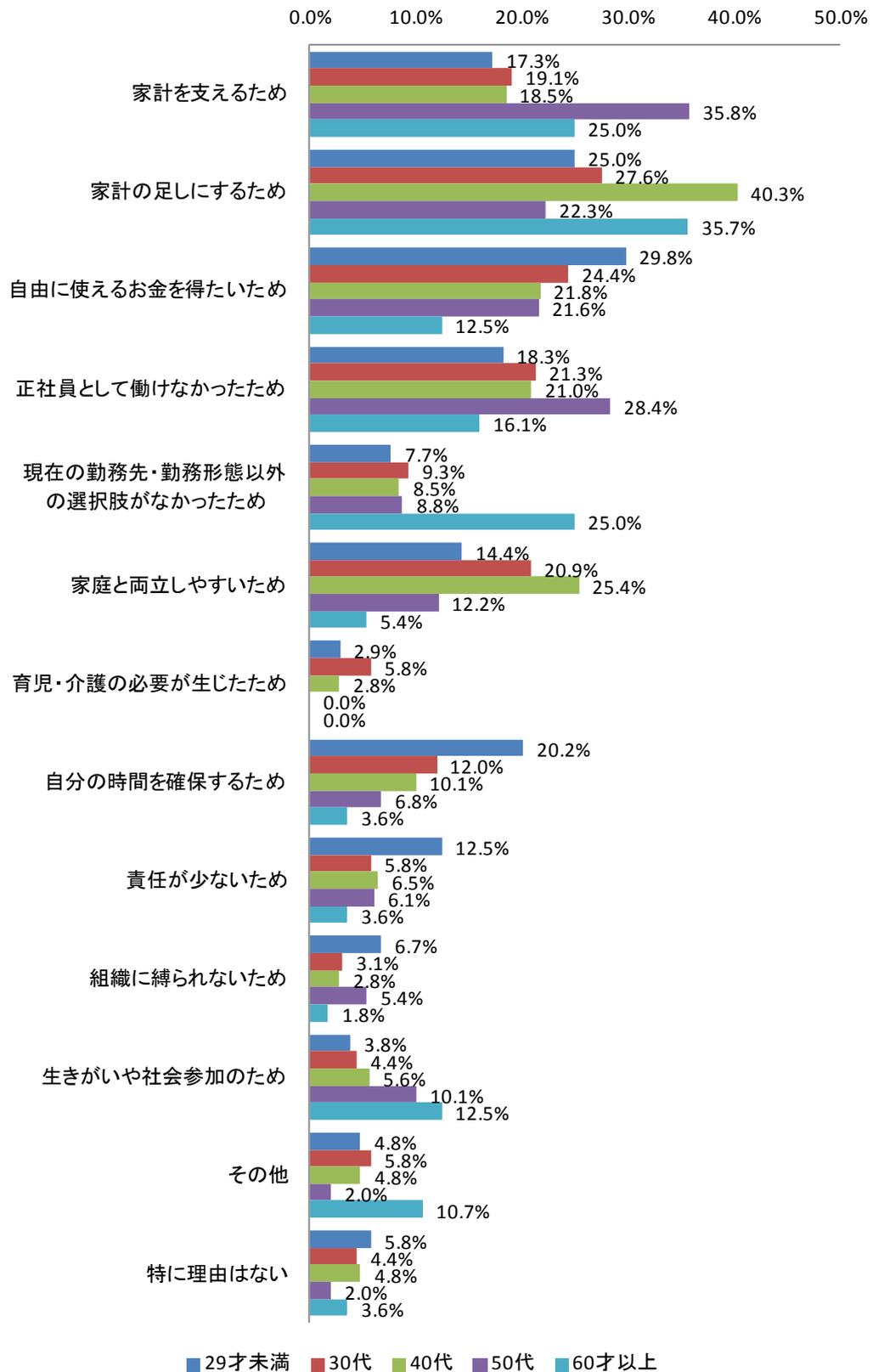
- ・ 「家計の足しにするため」が30.9%で最も多く、次いで、「自由に使えるお金を得たいため(22.9%)」、「家計を支えるため(22.3%)」、「正社員として働けなかったため(21.8%)」の3項目が20%台前半となっている。



【年齢階層別】

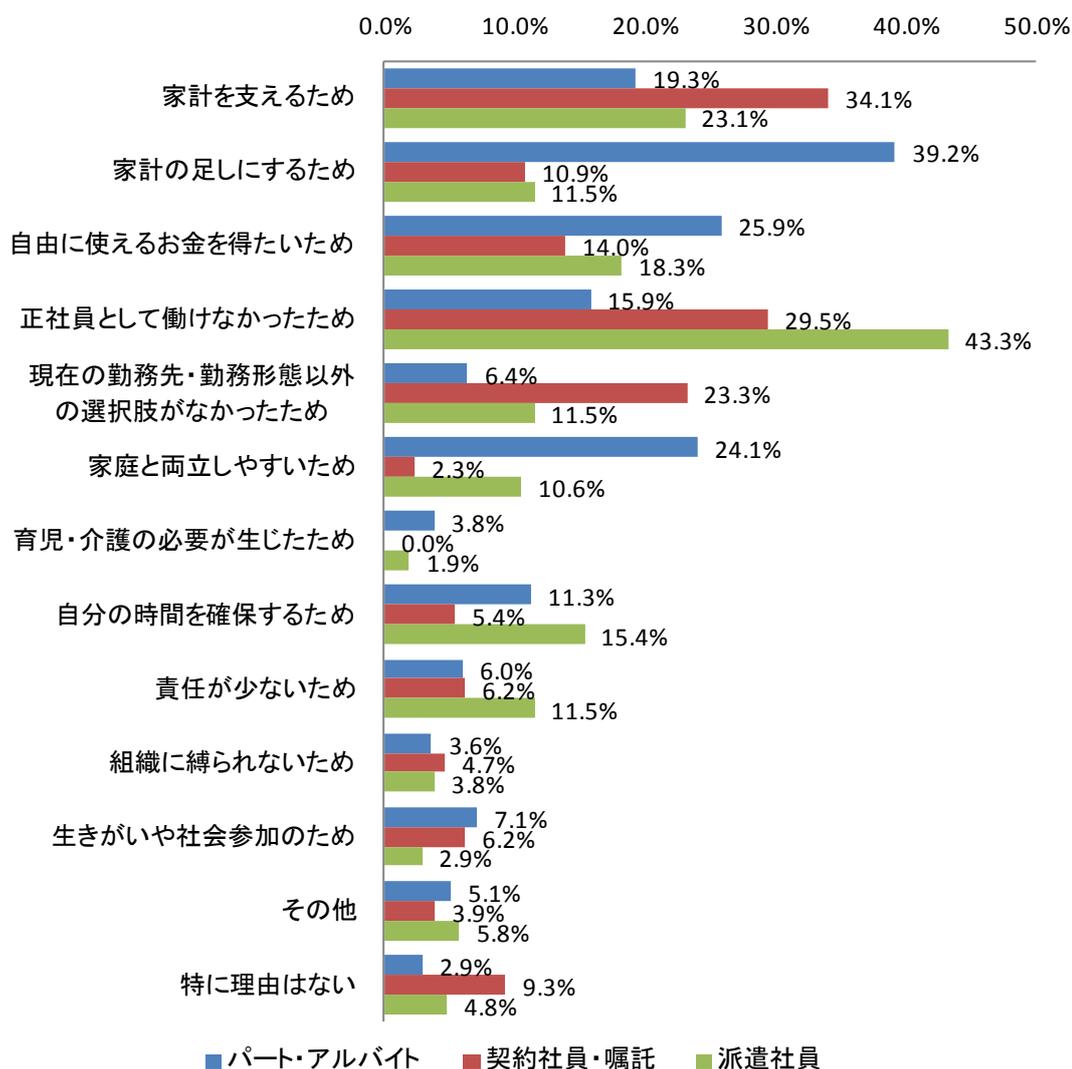
- ・ 年齢階層によって、回答傾向は大きく異なり、就業形態の選択には、それぞれ理由があることがわかる。
- ・ 「29才未満」では、「自由に使えるお金を得たいため」が29.8%で最も多く、次いで、「自分の時間を確保するため」が20.2%となる。
- ・ 「30代」及び「40代」では、「家計の足しにするため」が最も多く、特に40代では40.3%と突出して高い。

- ・ 「50代」では、「家計を支えるため」が35.8%で最も多く、他の年齢階層を大きく上回る。
- ・ 「60代」では、「家計の足しにするため」が35.7%で最も多いが、「現在の勤務先・勤務形態以外の選択肢がなかったため」が25.0%と、他の年齢階層を大きく上回る。



【就業形態別】

- ・ 就業形態により選択理由は大きく傾向が異なる。
- ・ 「パート・アルバイト」では、「家計の足しにするため」が 39.2%で最も多く、次いで、「自由に使えるお金を得たいため (25.9%)」、「家庭と両立しやすいため (24.1%)」となる。
- ・ 「契約社員・嘱託」では、「家計を支えるため」が 34.1%で最も多く、次いで、「正社員として働けなかったため」が 29.5%、さらに、「現在の勤務先・勤務形態以外の選択肢がなかったため」が 23.3%となり、消極的な理由であることがうかがえる。
- ・ 「派遣社員」では、「正社員として働けなかったため」が 43.3%で最も多く、他の選択肢と比べて突出している。次いで、「家計を支えるため」が 23.1%となる。

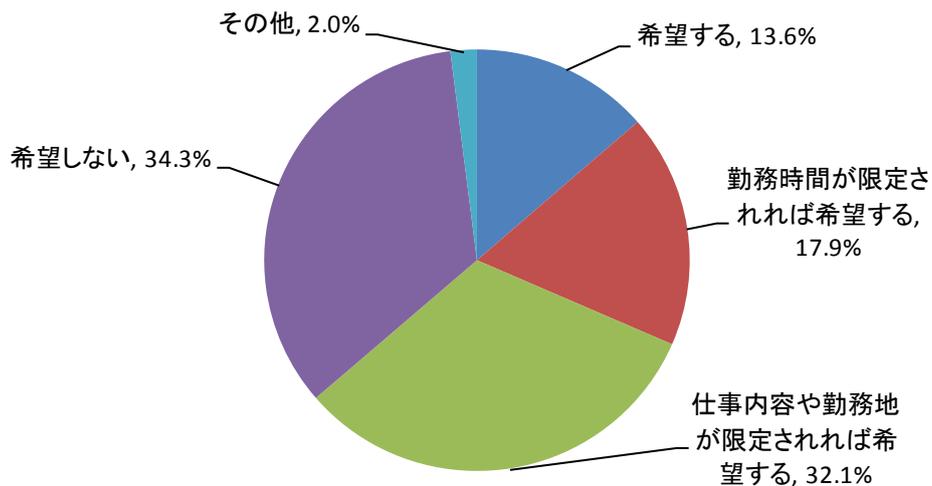


②正社員になることへの希望

(現在の職業形態が「パート・アルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」の人に限定)

Q4 あなたは正社員になることを希望しますか。最もあてはまるものをお選びください。(n=781)

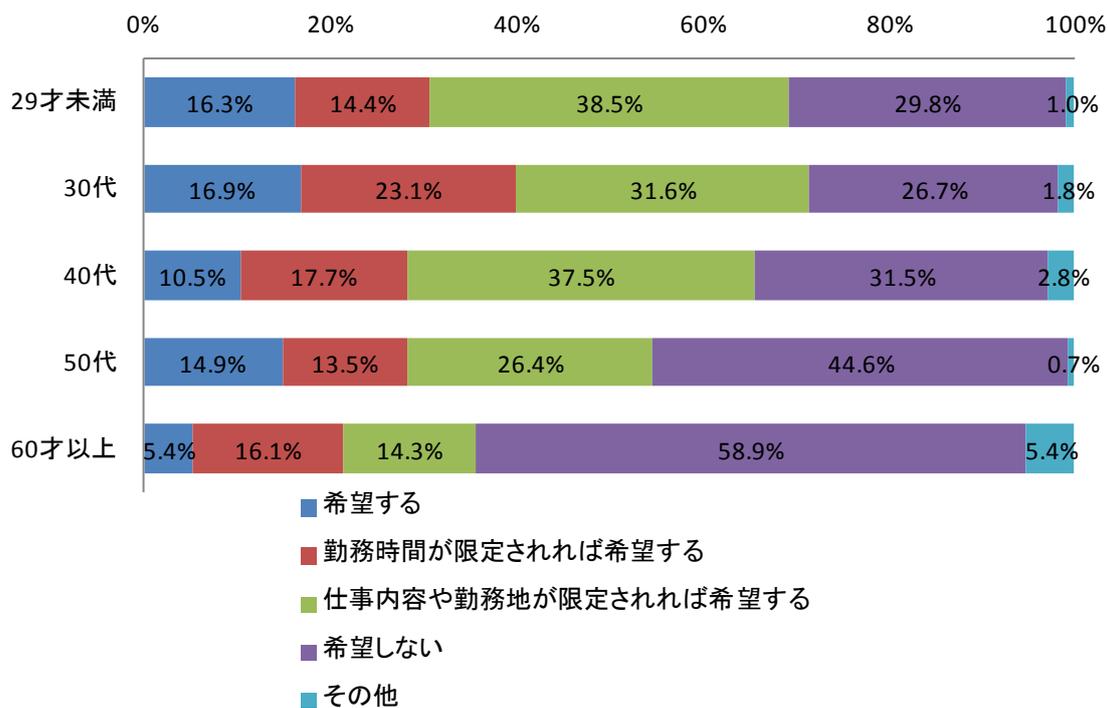
- ・ 「希望しない」が34.3%で最も多いが、「仕事内容や勤務地が限定されれば希望する」が32.1%で拮抗している。
- ・ 勤務時間・仕事内容・勤務地などが条件が限定されなくても「希望する」は13.6%であり、全体で最も少ない。



※「希望する」は「(勤務時間・仕事内容・勤務地などが限定されなくても)希望する」が選択肢

【年齢階層別】

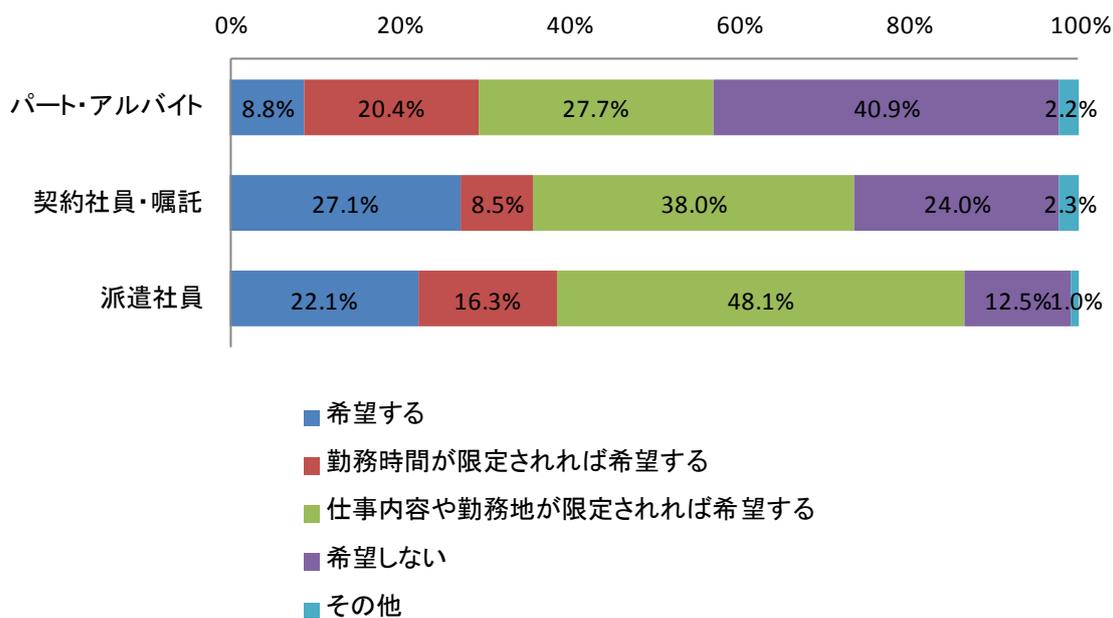
- ・ 「60才以上」及び「50代」では、「希望しない」がそれぞれ58.9%、44.6%で最も多く、他の選択肢を大きく上回る。
- ・ 「29才未満」、「30代」、「40代」の3階層では、「仕事内容や勤務地が限定されれば希望する」がそれぞれ、38.5%、31.6%、37.5%で最も多い。



※「希望する」は「(勤務時間・仕事内容・勤務地などが限定されなくても) 希望する」が選択肢

【就業形態別】

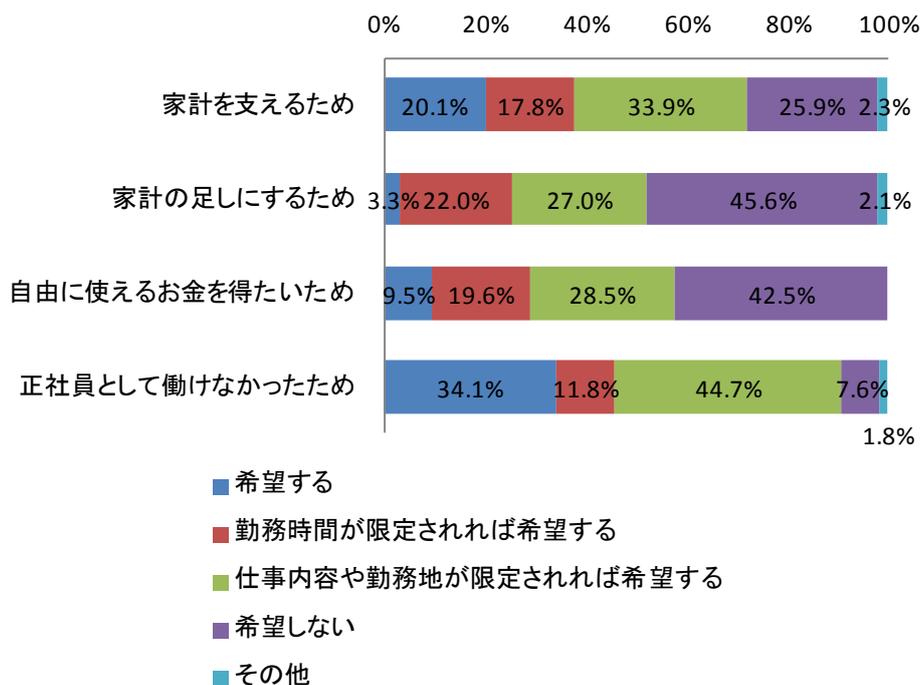
- ・ 「パート・アルバイト」は、「希望しない」が40.9%で最も多い。
- ・ 「契約社員・嘱託」及び「派遣社員」は、「仕事内容や勤務地が限定されれば希望する」がそれぞれ38.0%、48.1%で最も多い。
- ・ 「派遣社員」は、「希望しない」が12.5%であり、他の就業形態に比べて大幅に少ない。



※「希望する」は「(勤務時間・仕事内容・勤務地などが限定されなくても) 希望する」が選択肢

【現在の就業形態を選択した理由就業形態別】

- ・ 「3. 現在の就業形態を選択した理由」の上位4項目での回答傾向を見ると、「家計の足しにするため」及び「自由に使えるお金を得たいため」を選択した人は、「希望しない」がそれぞれ45.6%、42.5%と非常に多くなる。
- ・ 一方、「正社員として働けなかったため」を選択した人は、「仕事内容や勤務地が限定されれば希望する」が44.7%で最も多く、正社員となることを無条件で希望している訳でないことが分かる。



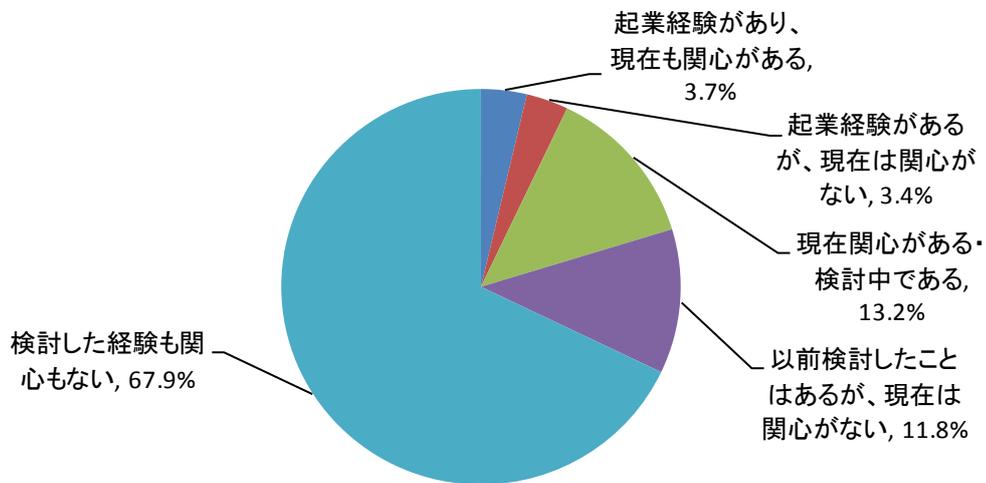
(5) 起業

①経験の有無

Q5 あなたは起業経験がありますか。あるいは起業したいと思いますか。(n=2,064)

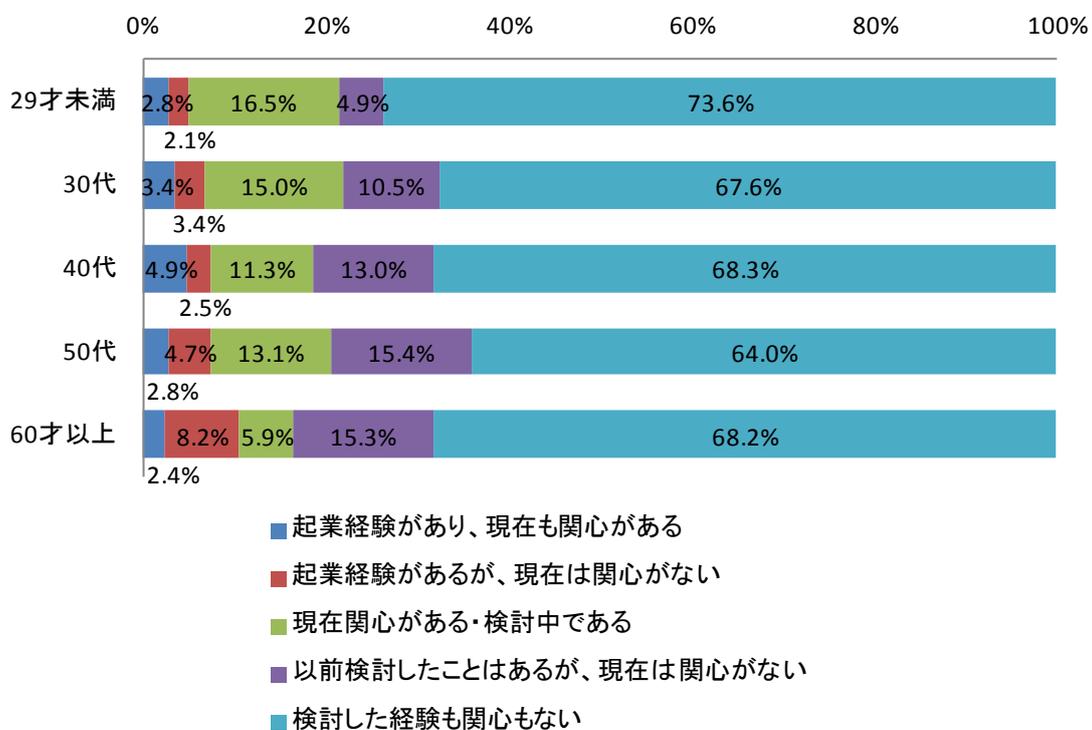
※起業とは、自ら会社を設立したものやフランチャイズチェーンへの参加が該当し、社内昇格や親族等からの経営権引継は該当しない。

- ・ 「起業経験があり、現在も関心がある」は3.7%、「起業経験があるが、現在は関心がない」は3.4%で、過去に起業経験がある人は、全体の7.1%となる。
- ・ 起業経験はないが、「現在関心がある・検討中である」は13.2%、「以前検討したことはあるが、現在は関心がない」は11.8%となる。



【年齢階層別】

- ・ 過去に起業経験のある人は、年齢が上がるにつれて増える傾向にある。
- ・ 「起業経験があり、現在も関心がある」及び「現在関心がある・検討中である」を合わせた現在企業に関心のある人は、「29才未満」で19.3%、「30代」で18.4%と2割近くあり、若い年齢層に企業意向が強いことが分かる。

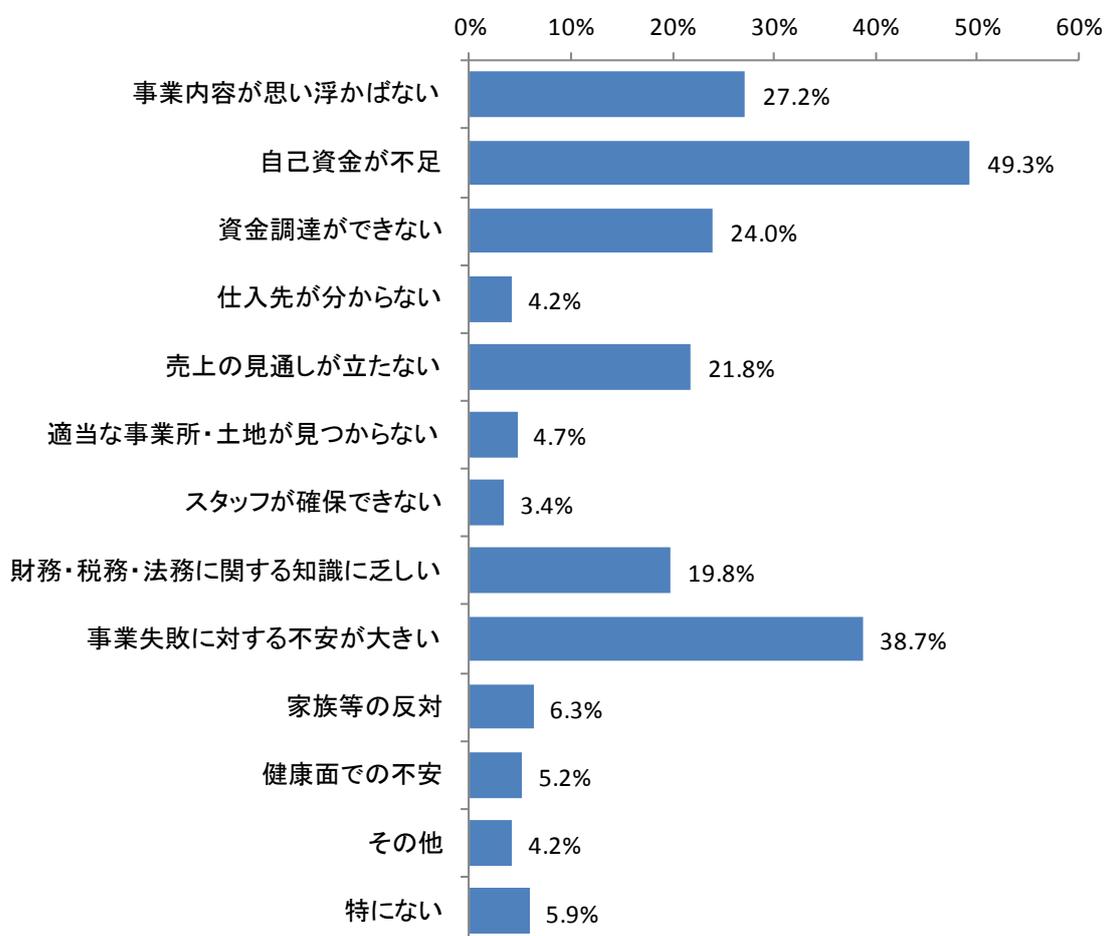


②起業しない理由

(「起業経験があり、現在も関心がある」、「現在関心がある・検討中である」、「以前検討したことはあるが、現在は関心がない」人に限定)

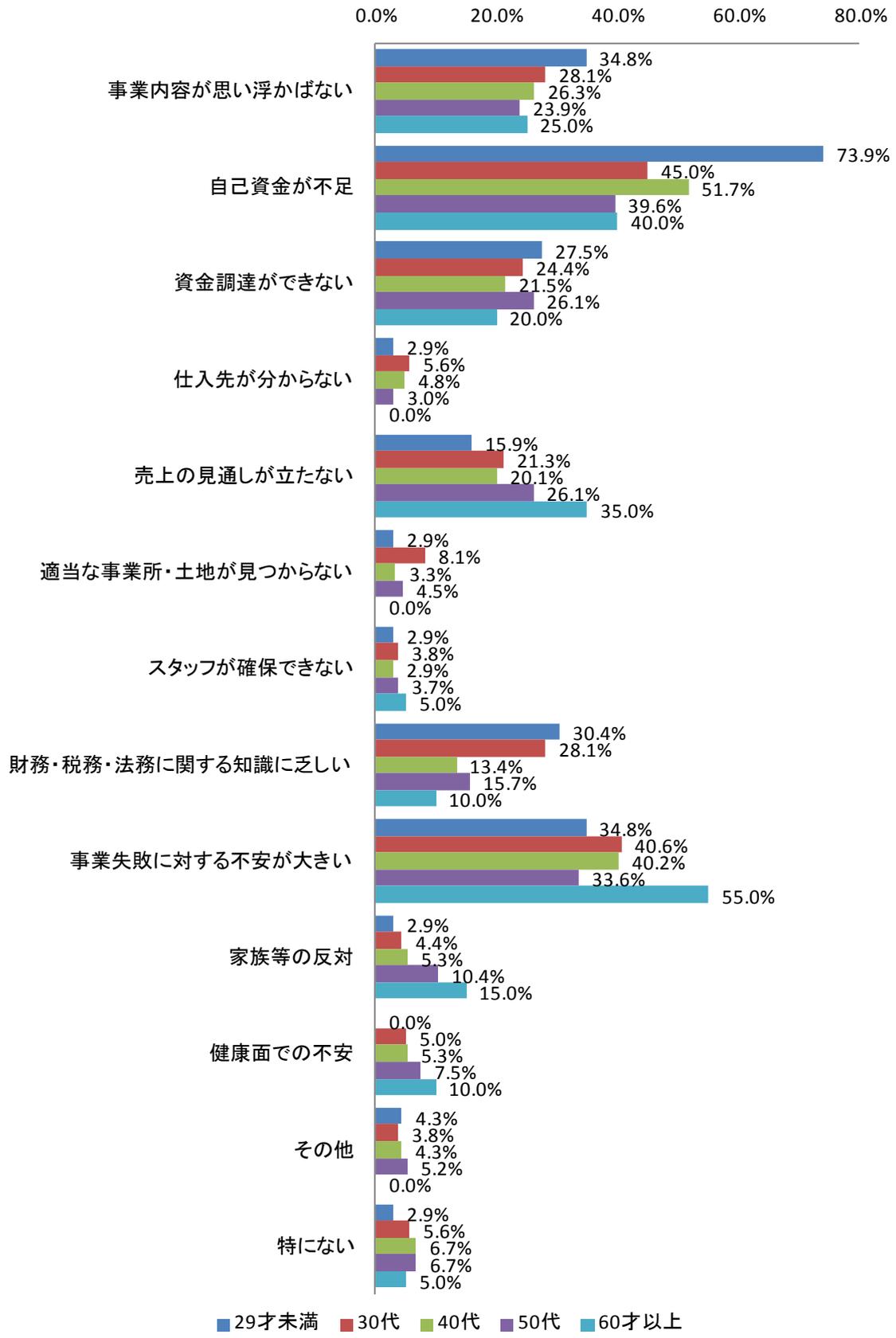
Q6 起業しない(しなかった)理由は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。(n=592)

- ・ 現在もしくは過去に企業意向があったものの、企業に至らなかった理由について、「自己資金が不足」が49.3%で最も多く、次いで、「事業失敗に対する不安が大きい」が38.7%となり、これら2項目が突出している。
- ・ この他、20%超えたのは、「事業内容が思い浮かばない(27.2%)」、「資金調達ができない(24.0%)」、「売上の見通しが立たない(21.8%)」の3項目である。



【年齢階層別】

- ・ 企業意欲の高い「29才未満」及び「30代」では、「自己資金が不足」がそれぞれ73.9%、45.0%で最も多く、特に「29才未満」では、他の年齢階層及び他の項目に比べて突出した理由となっている。
- ・ また、「29才未満」及び「30代」では、「財務・税務・法務に関する知識に乏しい」が他の年齢階層に比べて多い。



(6) 勤労感

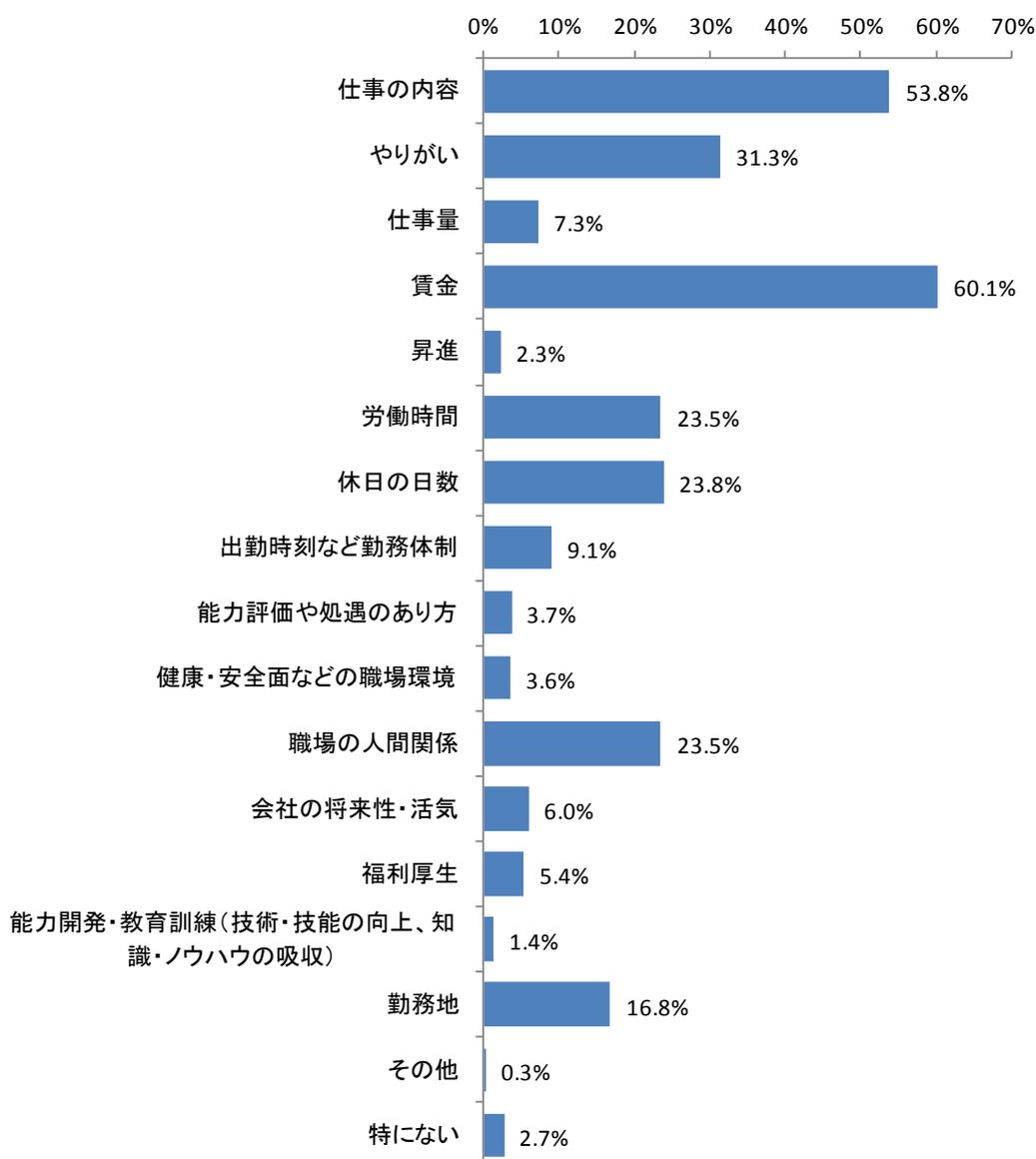
①働くうえで重要視すること

Q7 あなたは、働くうえで、どんなことを重要視していますか。主なものを3つまで選んでください。

(n=2,064)

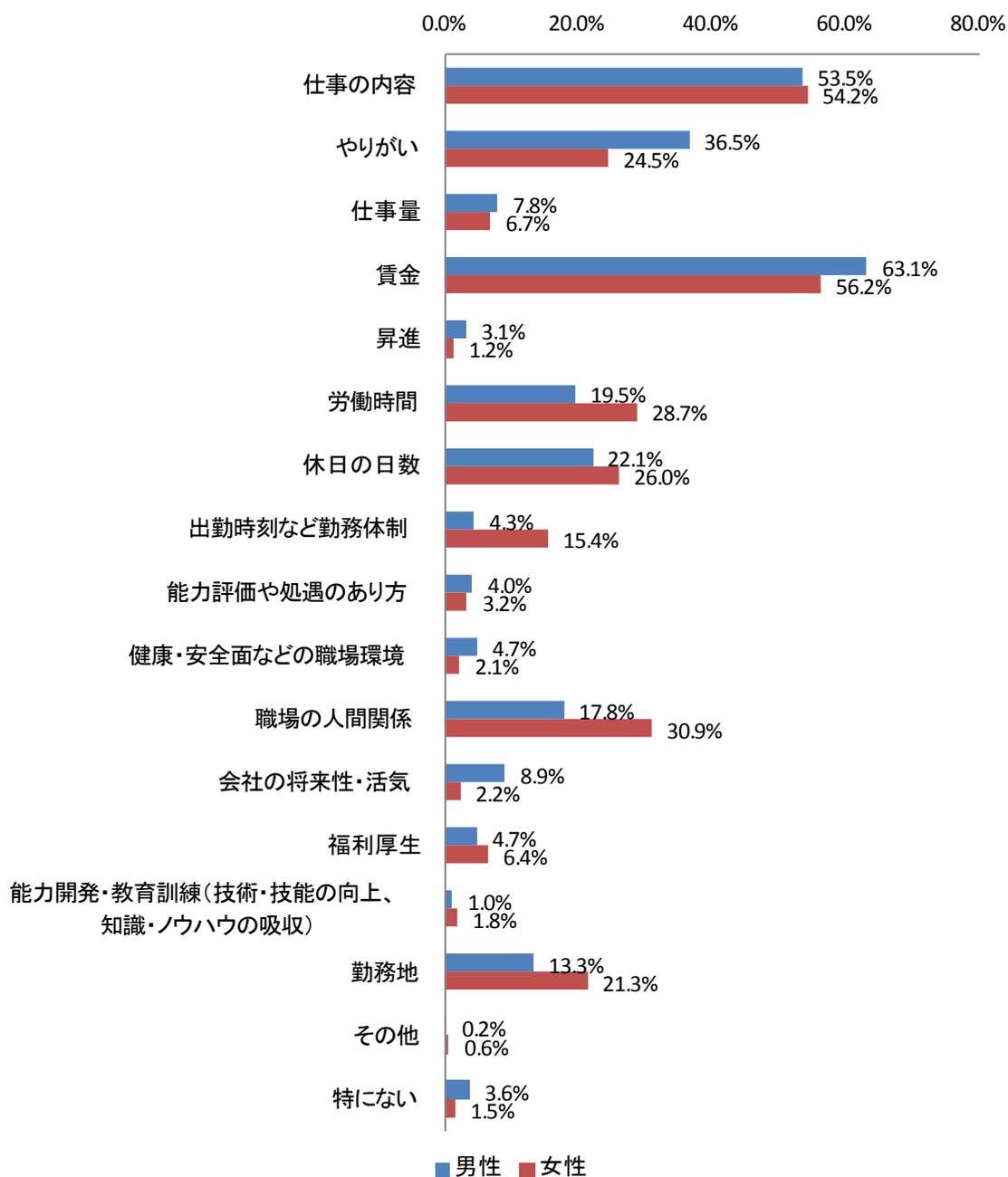
※現在の状況がどうかに関わらず重要視すること

- ・ 「賃金」が60.1%で最も多く、次いで、「仕事の内容」が53.8%であり、これら2項目が突出している。
- ・ この他、20%を超えたのは、上から順に「やりがい(31.3%)」、「休日の日数(23.8%)」、「労働時間(23.5%)」、「職場の人間関係(23.5%)」の4項目である。



【性別】

- ・ 上位2項目は、男女ともに「賃金」と「仕事の内容」である。
- ・ 第3位は、男性が「やりがい」が36.5%で第4位以降の項目を大きく上回っているのに対して、女性は「職場の人間関係」の30.9%、「労働時間」の28.7%、「休日の日数」の26.0%と、労働条件が上位となる。

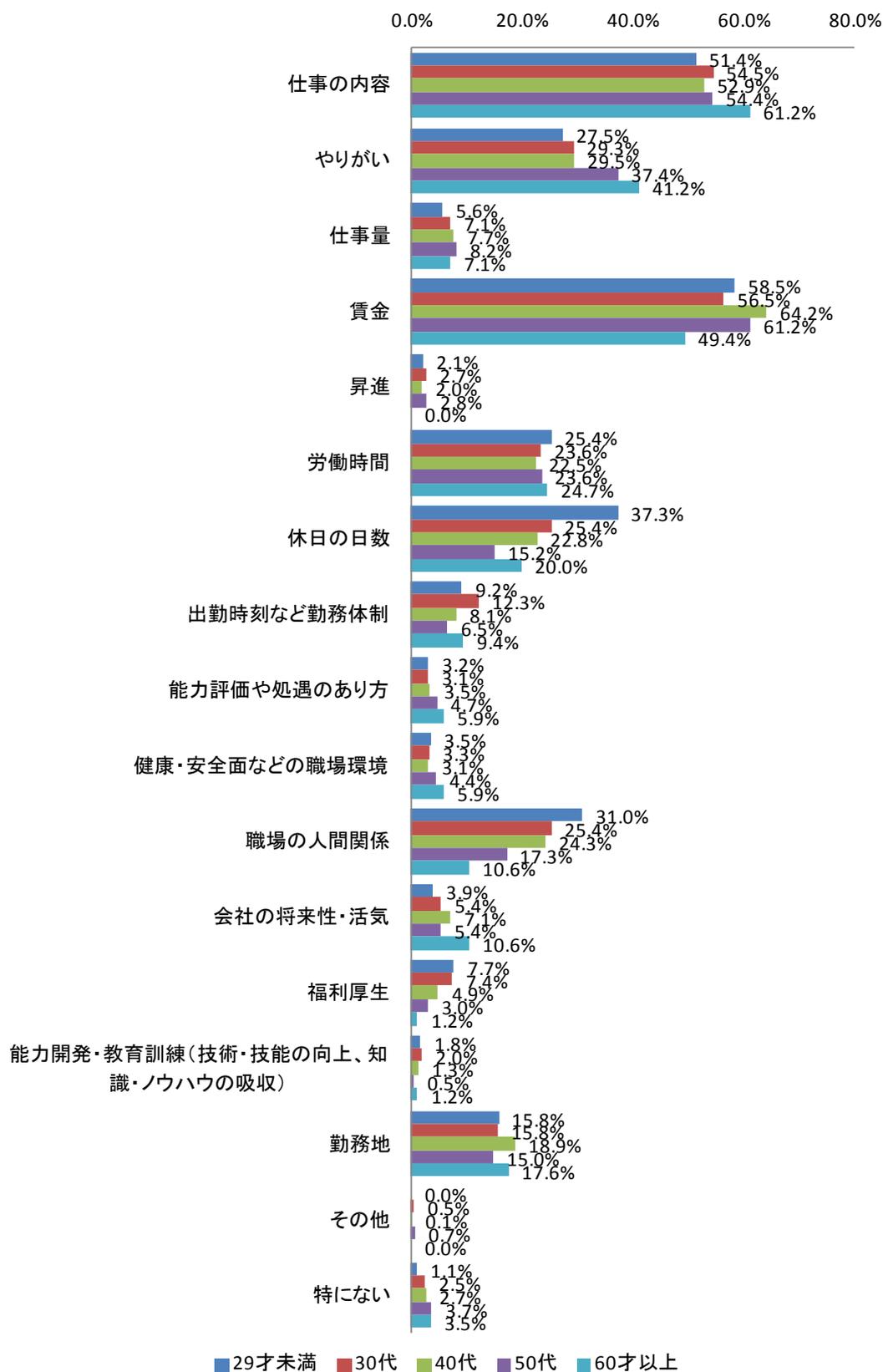


【年齢階層別】

- ・ 「29才未満」から「50代」まで「賃金」が最も高くなっているのに対して、「60才以上」では「仕事の内容」が上回る。
- ・ 「29才未満」では、「休日の日数」が37.3%、「職場の人間関係」が31.0%で他の年齢階層に

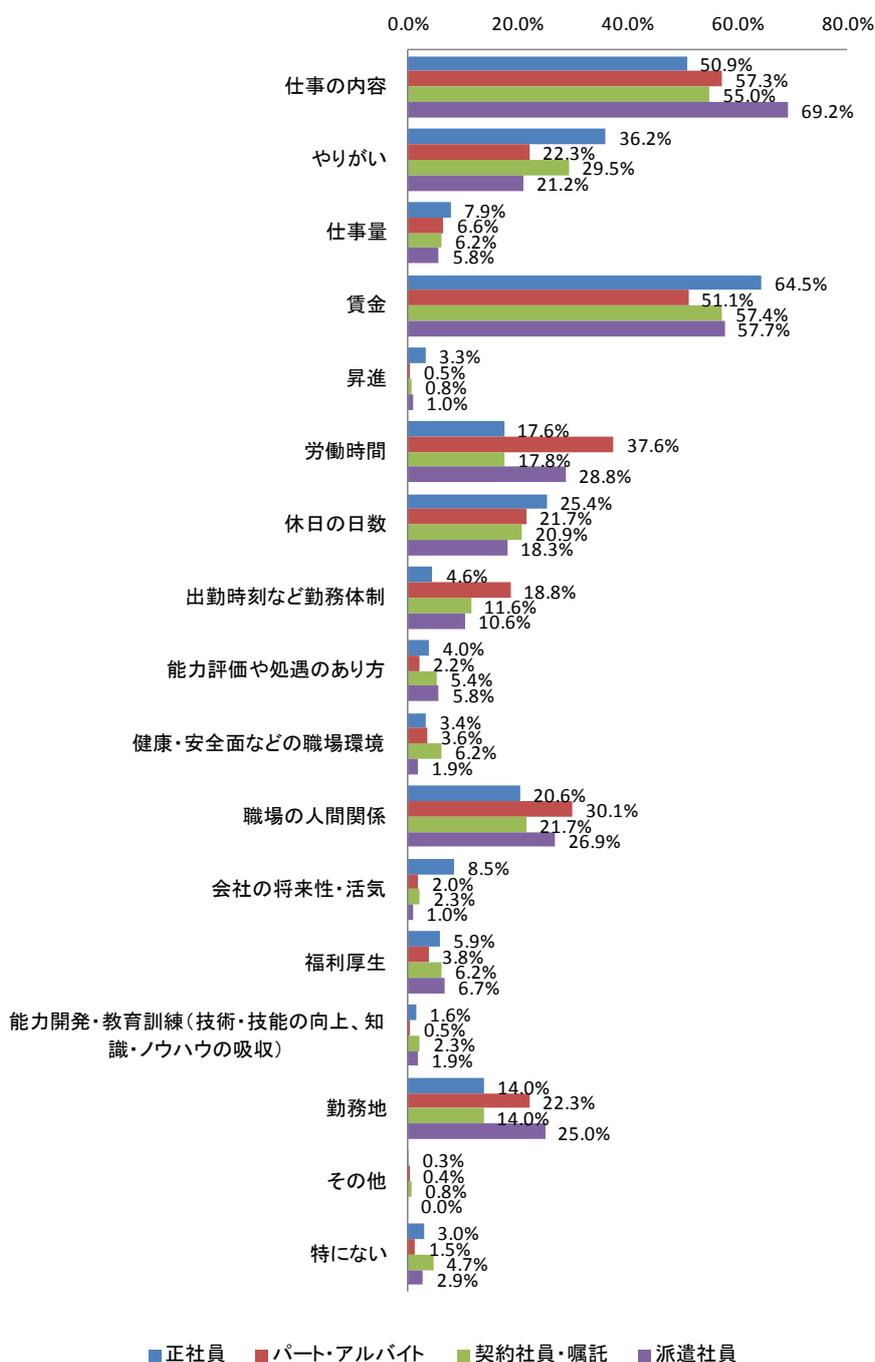
比べて突出しており、勤労に対する価値観が大きく異なる。

- ・ 「やりがい」は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。



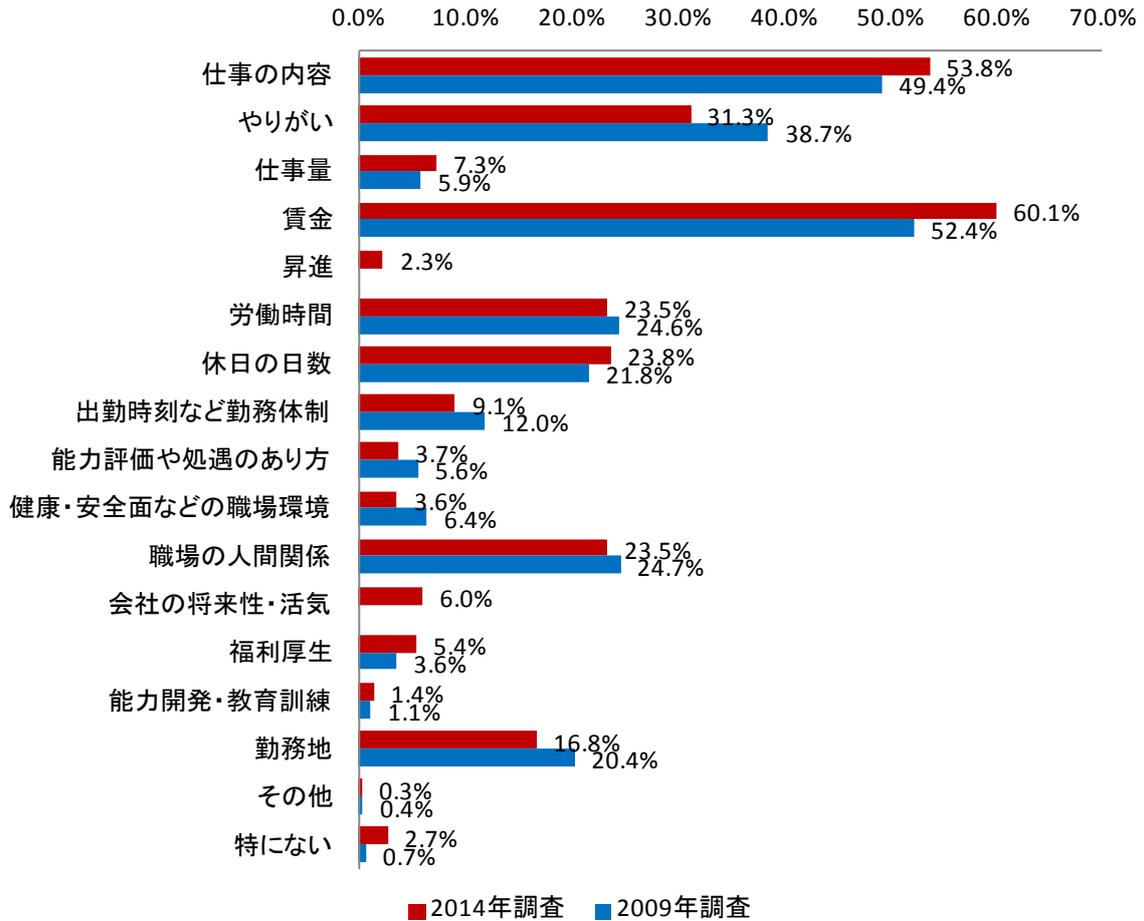
【就業形態別】

- ・ いずれの就業形態でも上位 2 項目は不変である。
- ・ 「正社員」及び「契約社員・嘱託」は、「賃金」が「仕事の内容」よりも多く、特に「正社員」は 13.9 ポイント上回る。
- ・ 「パート・アルバイト」及び「派遣社員」は、「仕事の内容」が第 1 位となり、特に「派遣社員」では 69.2%となり、圧倒的な割合となっている。
- ・ 「正社員」は、「やりがい」が 36.2%で、他の就業形態に比べて突出している。
- ・ 「パート・アルバイト」は、「労働時間」が 37.6%、「職場の人間関係」が 30.1%と他の就業形態よりも重視している割合が高い。



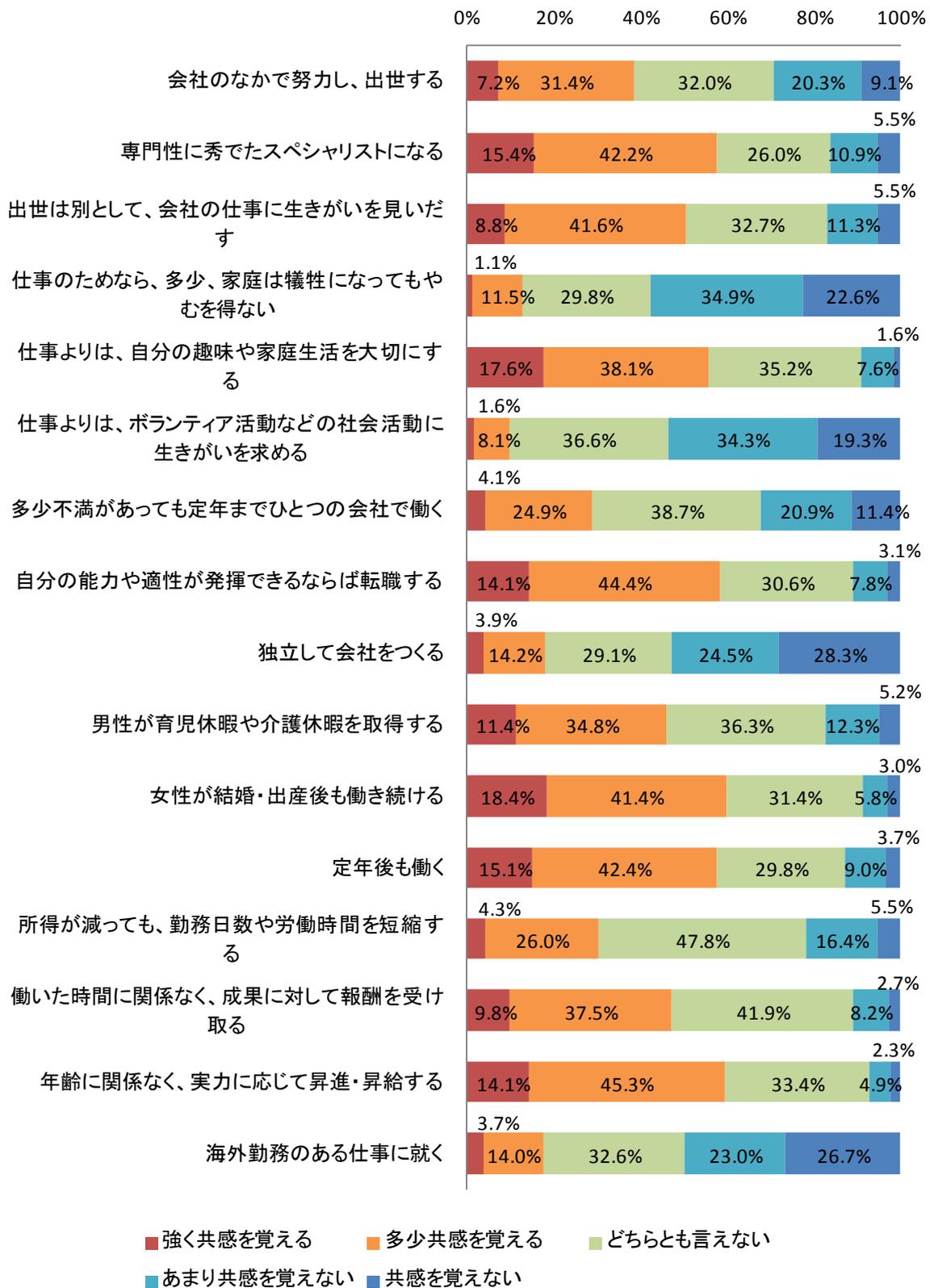
【前回との比較】

- ・ 全課調査した 2009 年と比べると、上位の項目に違いはないものの、第 1 位の「賃金」が 52.4% から 60.1%へと 7.7 ポイント上昇している。
- ・ 第 2 位の「仕事の内容」も 49.4%から 53.8%へと上昇したものの、その伸びは 4.4 ポイントと「賃金」よりも少ない。
- ・ 第 3 位の「やりがい」は、38.7%から 31.3%と 7.4 ポイント減少し、全項目で最も落ち込んだ。

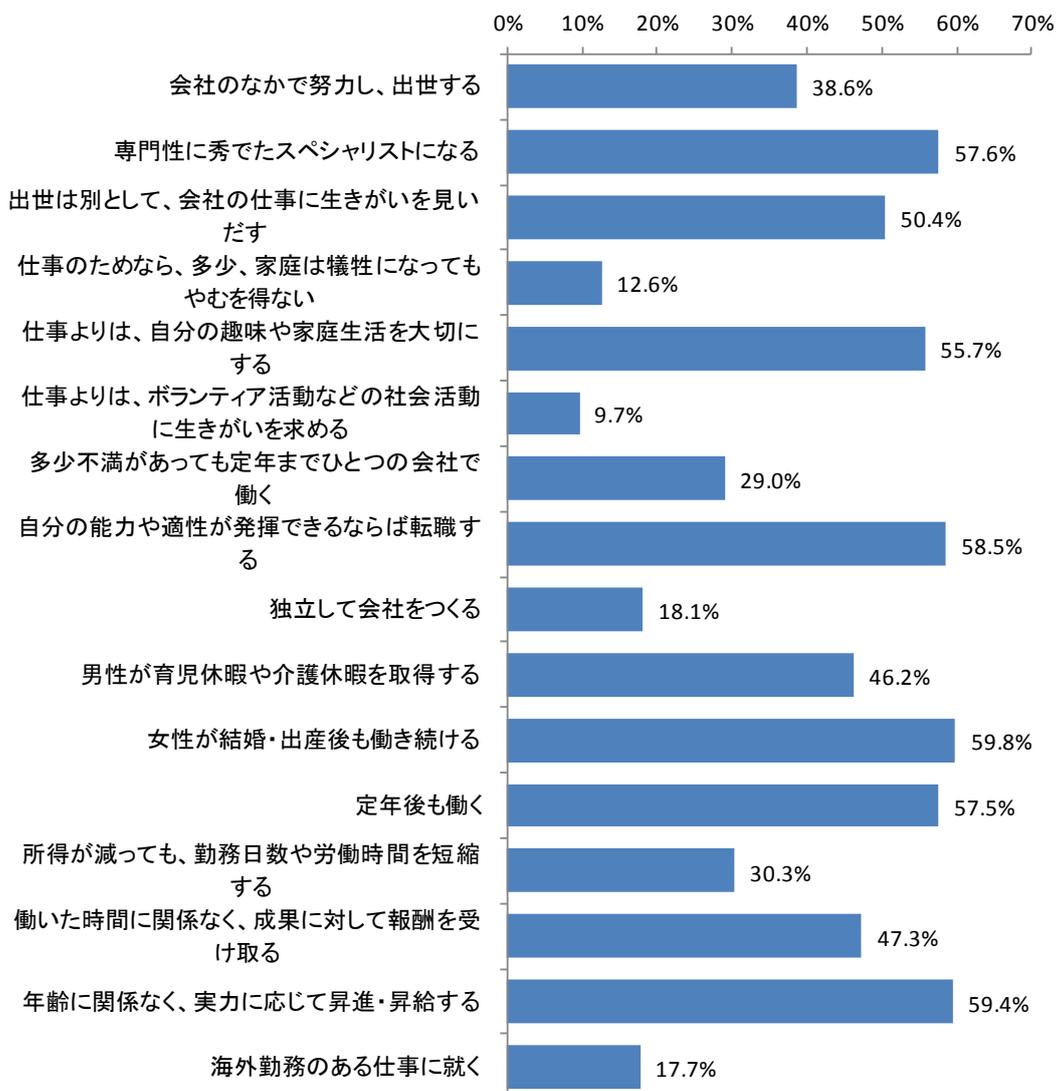


②働き方に関する共感

Q8 次の項目 1~16 に示した働き方について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(n=2,064)

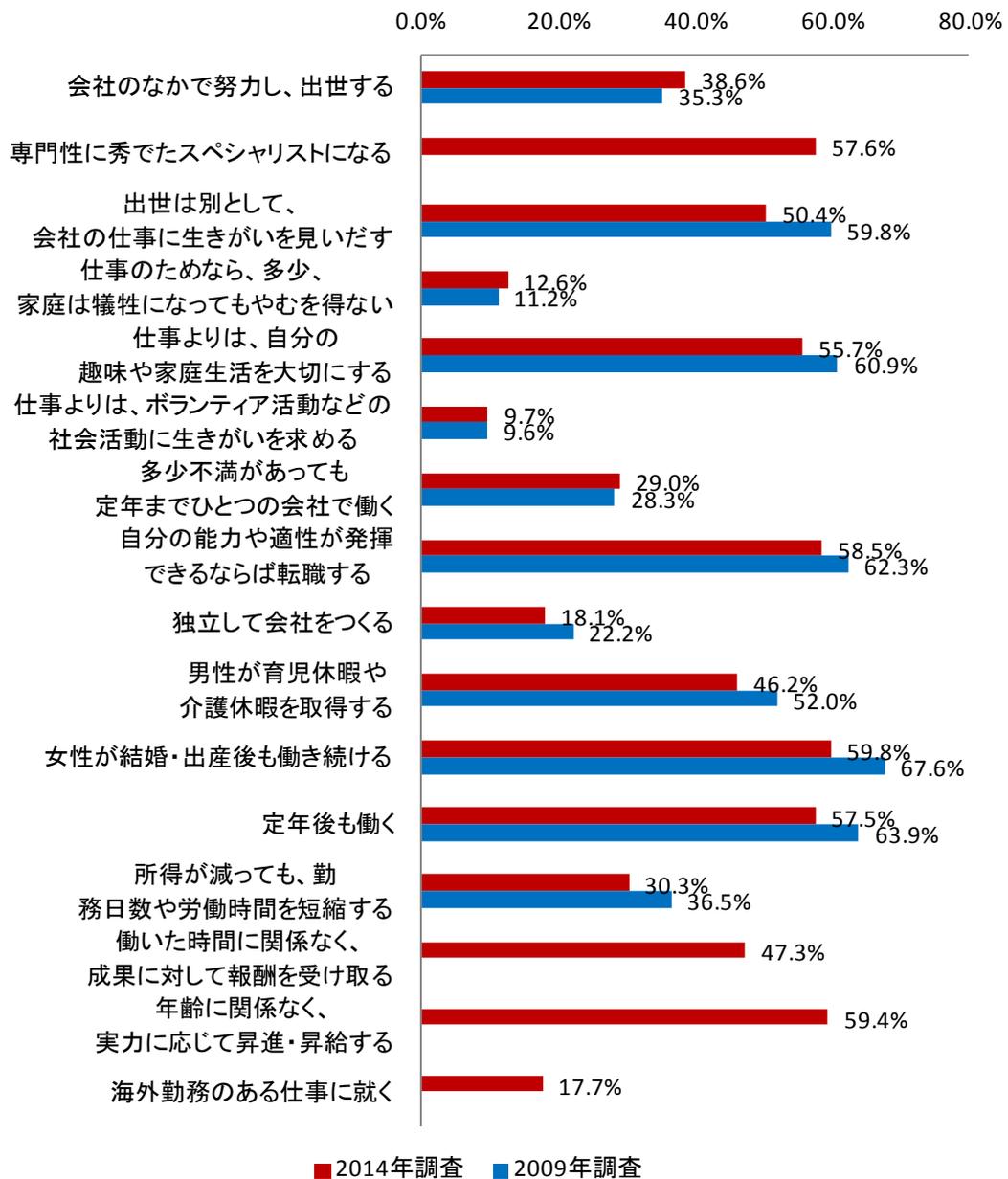


- ・ 「強く共感を覚える」と「多少共感を覚える」の割合の合計で見ると、5割以上の共感を得た項目は以下の7項目となった。
 - 「女性が結婚・出産後も働き続ける」59.8%
 - 「年齢に関係なく、実力に応じて昇進・昇給する」59.4%
 - 「自分の能力や適性が発揮できるならば転職する」58.5%
 - 「専門性に秀でたスペシャリストになる」57.6%
 - 「定年後も働く」57.5%
 - 「仕事よりは、自分の趣味や家庭生活を大切にす」55.7%
 - 「出世は別として、会社の仕事に生きがいを見いだす」50.4%
- ・ 一方、共感を得た割合が2割を下回った項目は、以下の4項目となった。
 - 「仕事よりは、ボランティア活動などの社会活動に生きがいを求める」9.7%
 - 「仕事のためなら、多少、家庭は犠牲になってもやむを得ない」12.6%
 - 「海外勤務のある仕事に就く」17.7%



【前回との比較】

- ・ 2009年調査と比べて選択肢が増えているが、前回と同じ選択肢について、共感を得た割合は概ね低下する傾向にある。
- ・ 特に大きく低下した3項目は、以下のとおり。
 - 「出世は別として、会社の仕事に生きがいを見いだす」9.4ポイント減(59.8%→50.4%)
 - 「女性が結婚・出産後も働き続ける」9.8ポイント減(67.6%→59.8%)
 - 「定年後も働く」6.4ポイント減(63.9%→57.5%)
- ・ 一方、3ポイントあまりであるが、増加した項目は、以下のとおり。
 - 「会社のなかで努力し、出世する」3.3ポイント増(35.3%→38.6%)

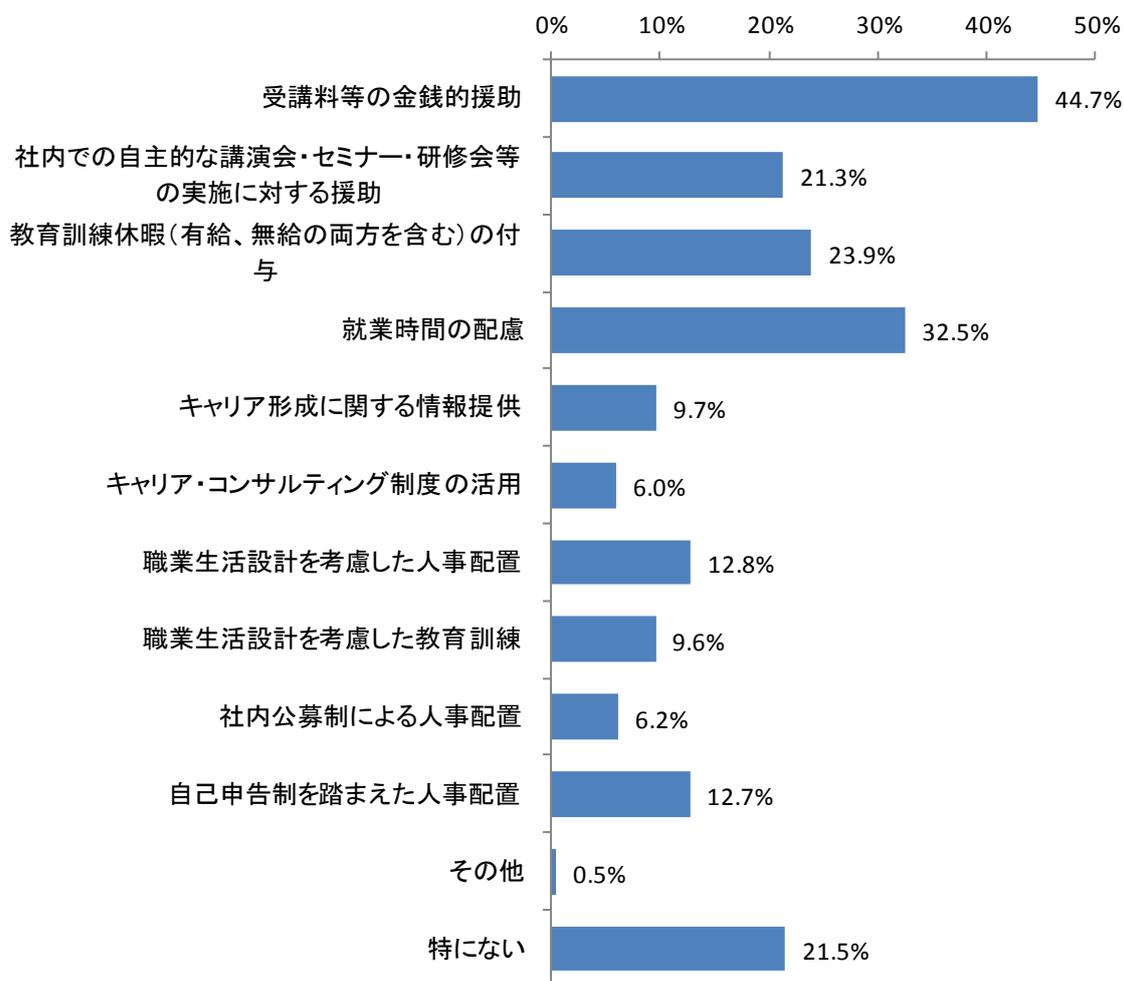


(7) 自己啓発

①会社に期待する支援策

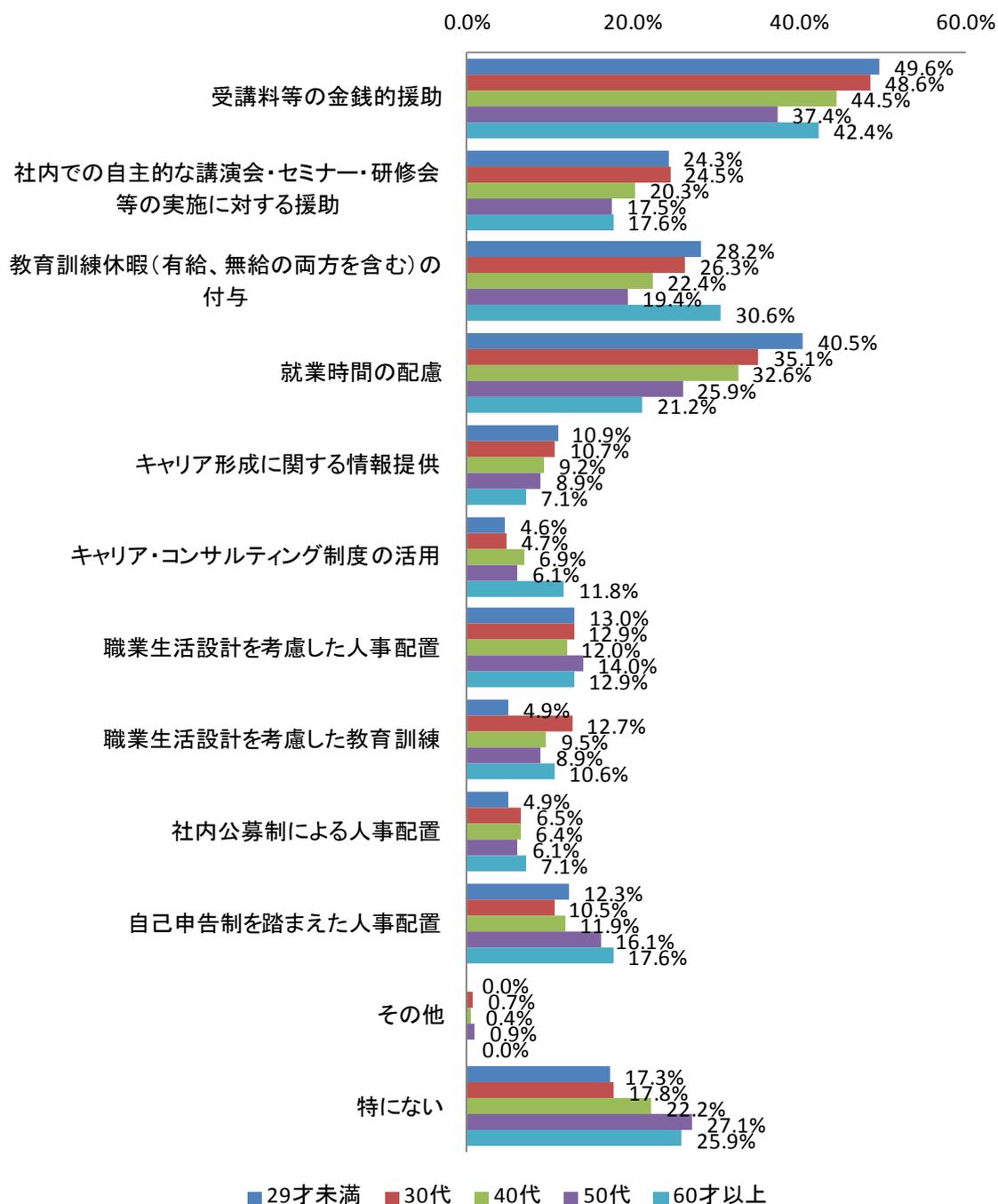
Q9 あなたが職業能力を高め、自己啓発を行っていくうえで、最も会社にしてもらいたい支援策は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。(n=2,064)

- ・ 「受講料等の金銭的援助」が44.7%で最も多く、次いで、「就業時間の配慮」が32.5%となる。
- ・ この他、「教育訓練休暇（有給、無給の両方を含む）の付与（23.9%）」及び「社内での自主的な講演会・セミナー・研修会等の実施に対する援助（21.3%）」が2割を超える。



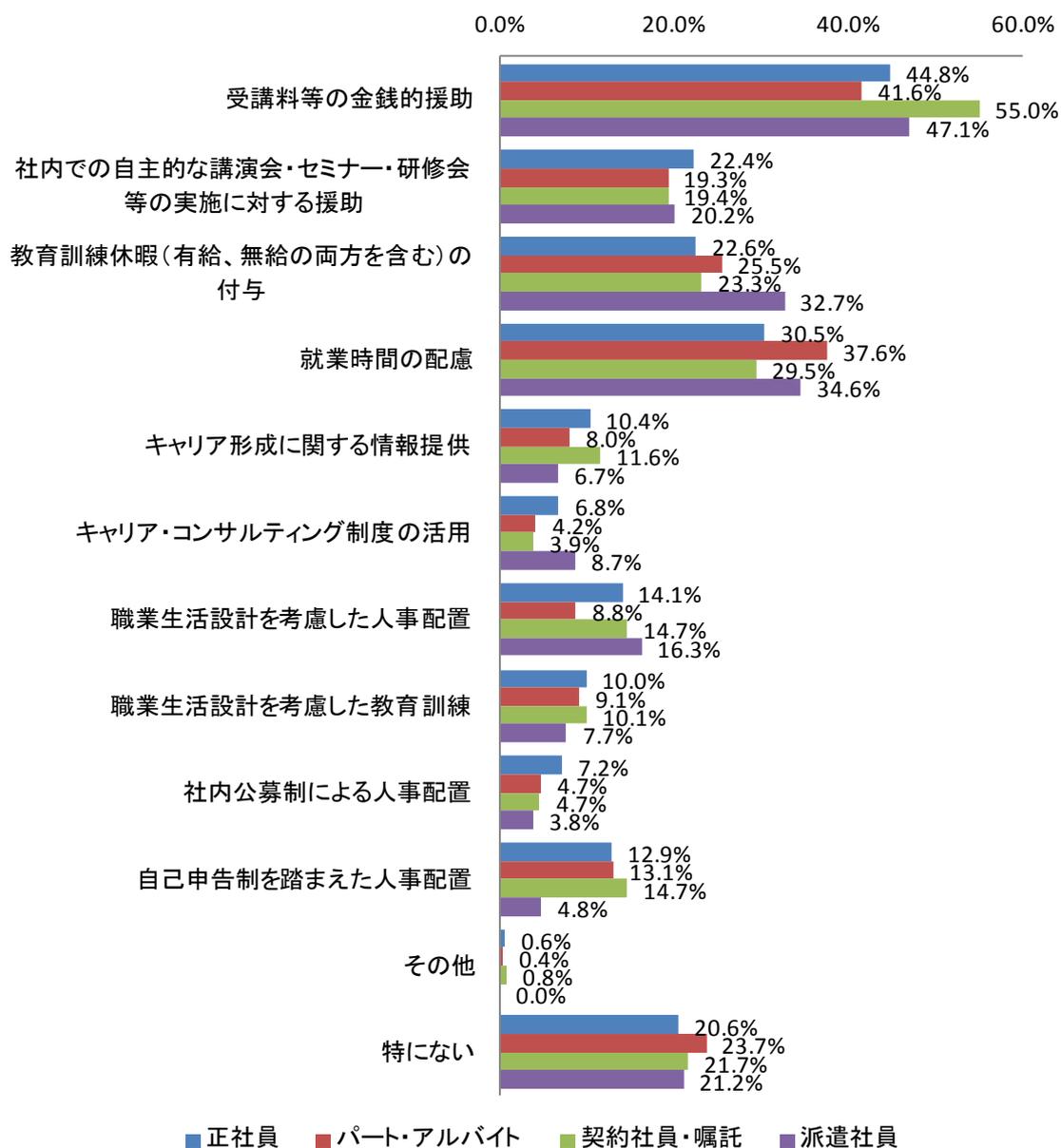
【年齢階層別】

- ・ 上位となる項目に年齢階層による差異はないものの、「29才未満」や「30代」の若い年齢階層ほど、支援に対するニーズが高くなる傾向が見られる。



【就業形態別】

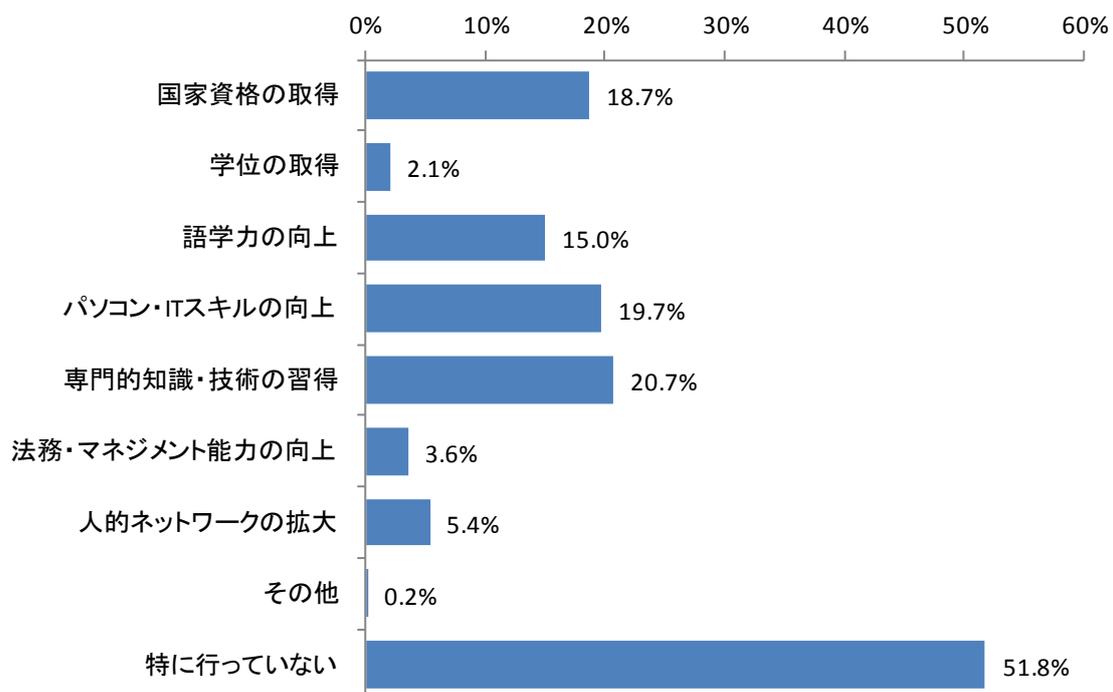
- ・ 年齢階層別のように特性の属性において、ニーズが大きくなる傾向は見られない。
- ・ 特徴的な傾向として、最も多い「受講料等の金銭的援助」では「契約社員・嘱託」で55.0%と他の就業形態に比べて突出して高い。また、「教育訓練休暇（有給、無給の両方を含む）の付与」において、「派遣社員」が32.7%で他の就業形態に比べて高い傾向が見られる。



②実施している自己啓発

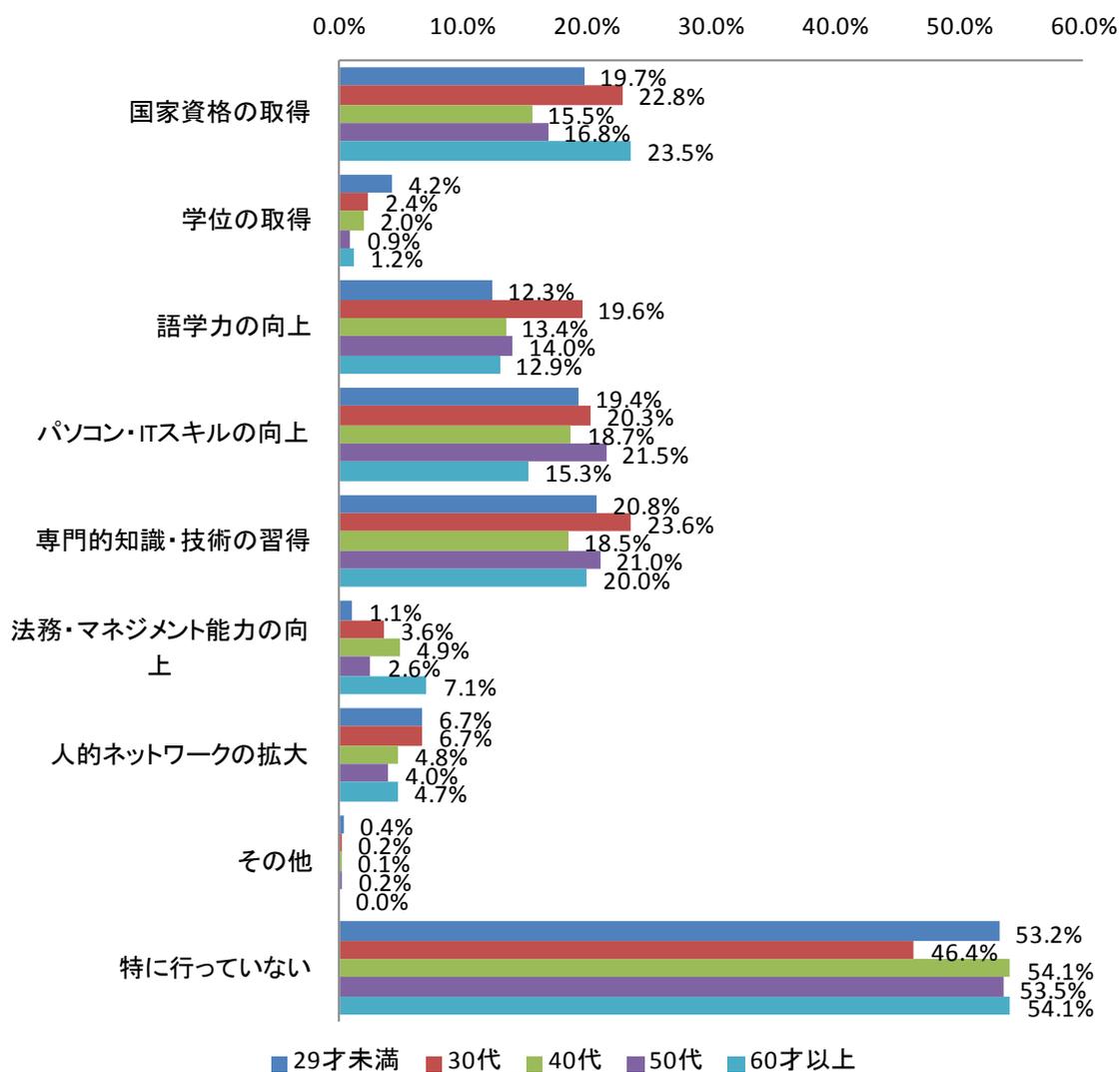
Q10 あなたが自己啓発のために行っていることを選んでください。当てはまるものを全て選んでください。(n=2,064)

- ・ 「特に行っていない」が51.8%で約半数に達している。
- ・ 実施している自己啓発活動は、「専門的知識・技術の習得」が20.7%で最も多く、次いで、「パソコン・ITスキルの向上」が19.7%、「国家資格の取得」が18.7%となっている。



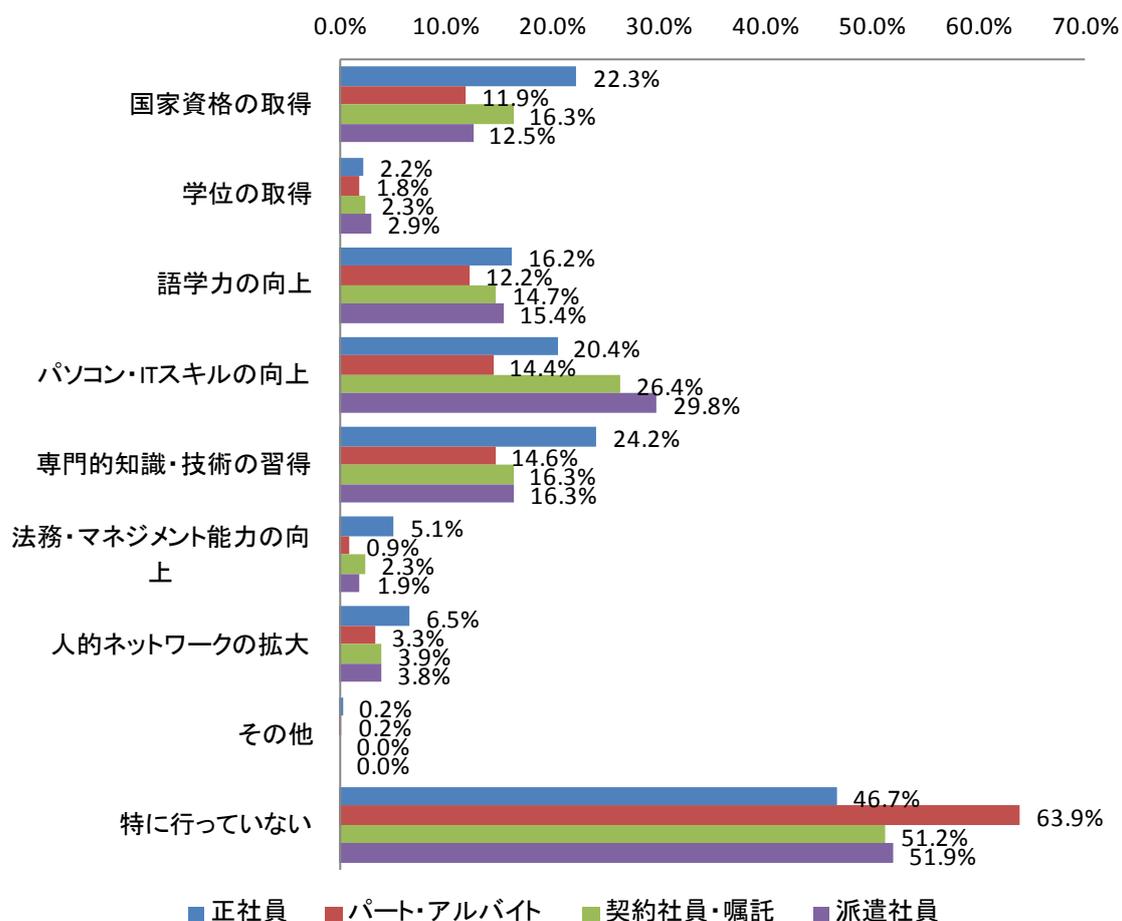
【年齢階層別】

- ・ 全ての年齢階層において「特に行っていない」が最も多くなっているが、唯一、「30歳代」が46.4%で5割を割り込んでいる。
- ・ 「29才未満」及び「30代」は、「専門的知識・技術の習得」が最も多く、それぞれ20.8%、23.6%となっている。また、「30代」では、「語学力の向上」が19.6%で、他の年齢階層に比べて高くなっている。
- ・ 「40代」及び「50代」は、「パソコン・ITスキルの向上」が最も多く、それぞれ18.7%、21.5%となっている。
- ・ 「60才以上」では、「国家資格の取得」が23.5%で最も多い。



【就業形態別】

- ・ 「特に行っていない」について、「パート・アルバイト」が63.9%で他の就業形態に比べて突出して高い。最も少ないのは「正社員」であるが、46.7%あり、「契約社員・嘱託（51.2%）」及び「派遣社員（51.9%）」と大きな違いは見られない。
- ・ 実施している自己啓発活動について、「契約社員・嘱託」及び「派遣社員」では、「パソコン・ITスキルの向上」が、それぞれ26.4%、29.8%となり、他の就業形態を上回る。
- ・ 「正社員」は、「専門的知識・技術の習得」が24.2%、「国家資格の取得」が22.3%と、他の就業形態と比べて突出している。
- ・ 「語学力の向上」については、就業形態による差異は見られない。



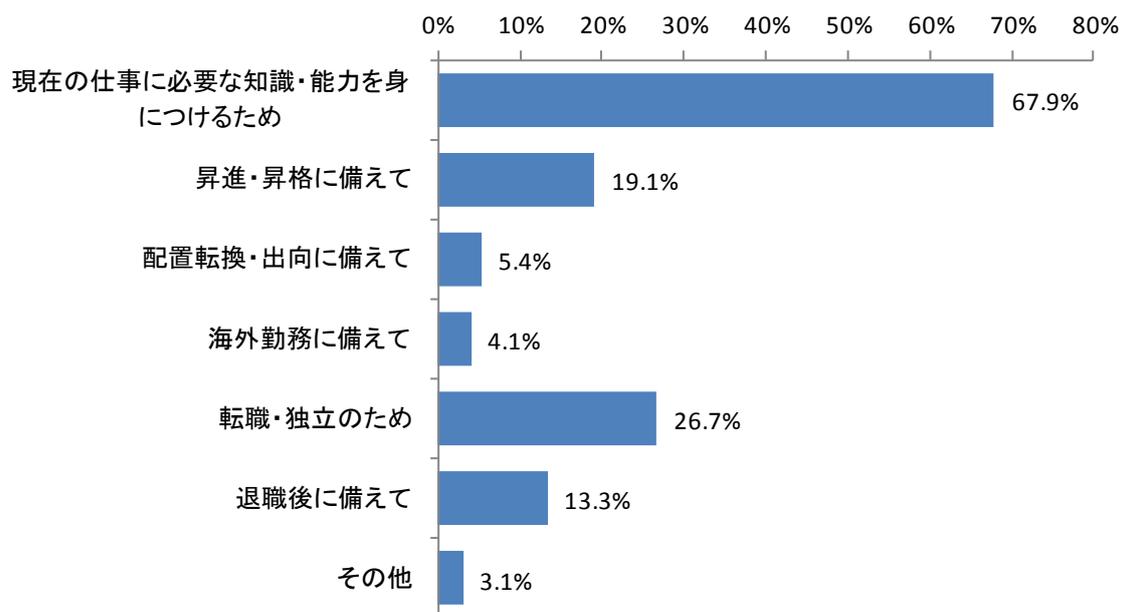
③自己啓発を行う理由

(自己啓発活動について「特に行っていない」人以外に限定)

Q11 あなたが自己啓発を行っている理由について、当てはまるものを2つまで選んでください。

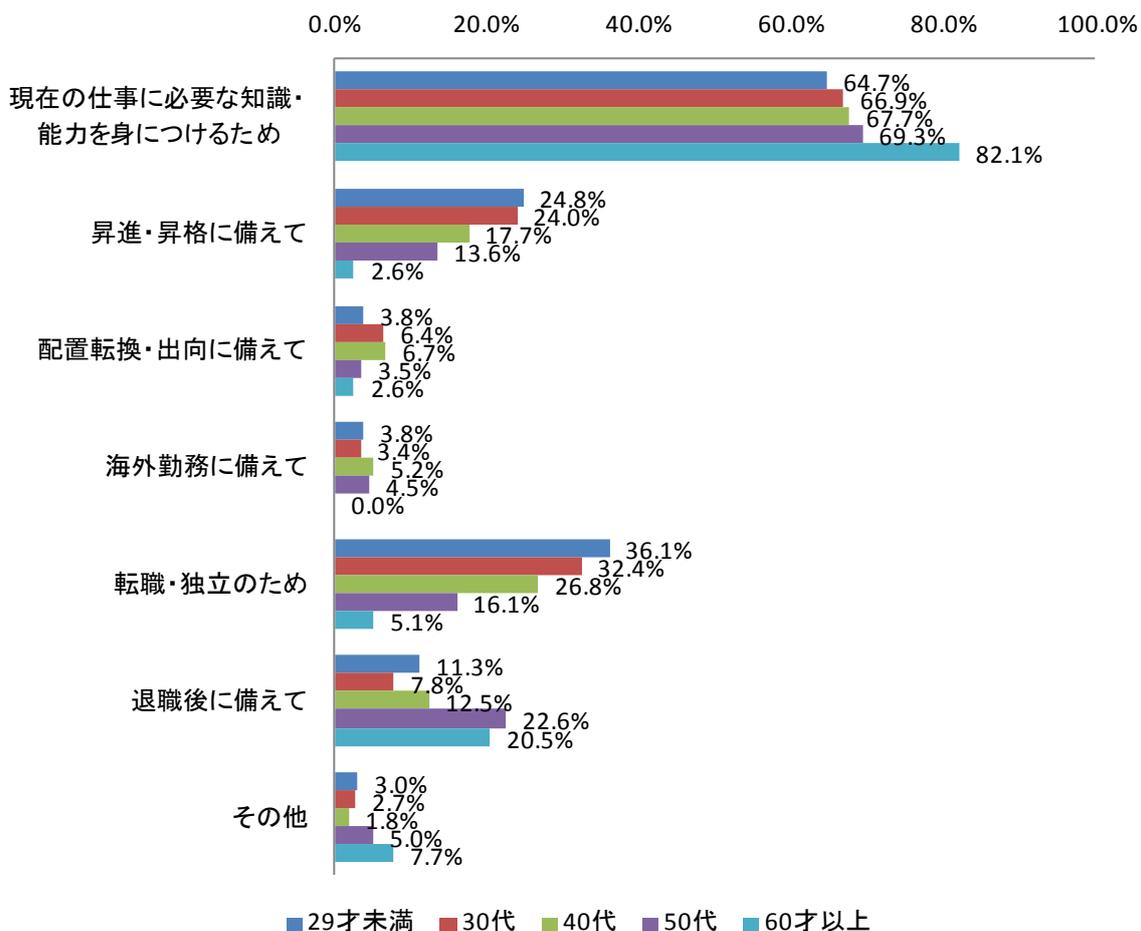
(n=995)

- ・ 「現在の仕事に必要な知識・能力を身につけるため」が67.9%と多く、他の項目と比べて突出している。
- ・ 次いで、「転職・独立のため」が26.7%となる。



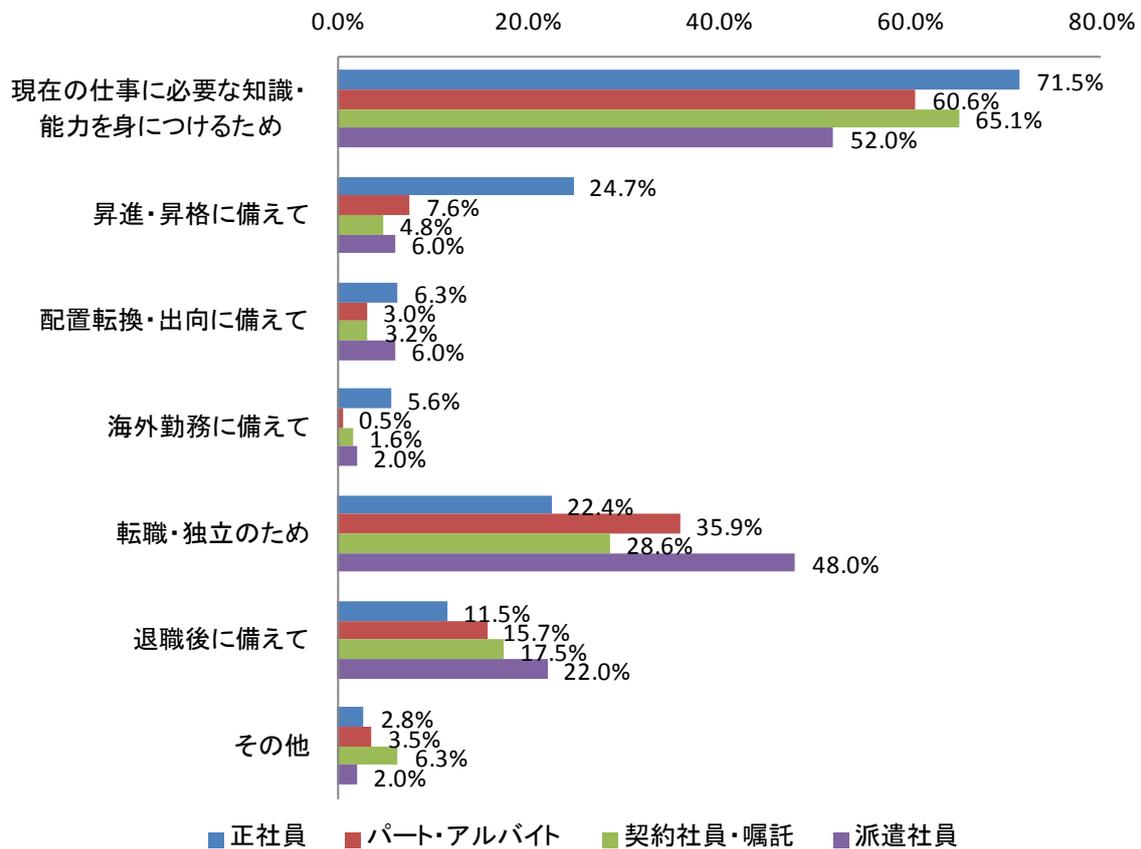
【年齢階層別】

- ・ 全ての年齢階層において、「現在の仕事に必要な知識・能力を身につけるため」が突出しており、特に、年齢が上がるにつれて高まる傾向にあり、「60才以上」では82.1%にも達する。
- ・ 「転職・独立のため」は、年齢階層が下がるほど高まる傾向にあり、「29才未満」及び「30代」では、それぞれ36.1%、32.4%となる。
- ・ 「昇進・昇格に備えて」も、「29才未満」及び「30代」で多く、それぞれ24.8%、24.0%となる。
- ・ 「50代」及び「60才以上」では、「退職後に備えて」が、それぞれ22.6%、20.5%と多く、他の年齢階層に比べて突出している。



【雇用形態別】

- ・ 「正社員」は、「現在の仕事に必要な知識・能力を身につけるため」が71.5%と非常に多くなり、他の雇用形態を上回る。また、「昇進・昇格に備えて」も24.7%と、他の雇用形態と比べて突出している。
- ・ 「派遣社員」については、「転職・独立のため」が48.0%で、「現在の仕事に必要な知識・能力を身につけるため」の52.0%に迫るほどであり、また、他の雇用形態と比べて突出している。



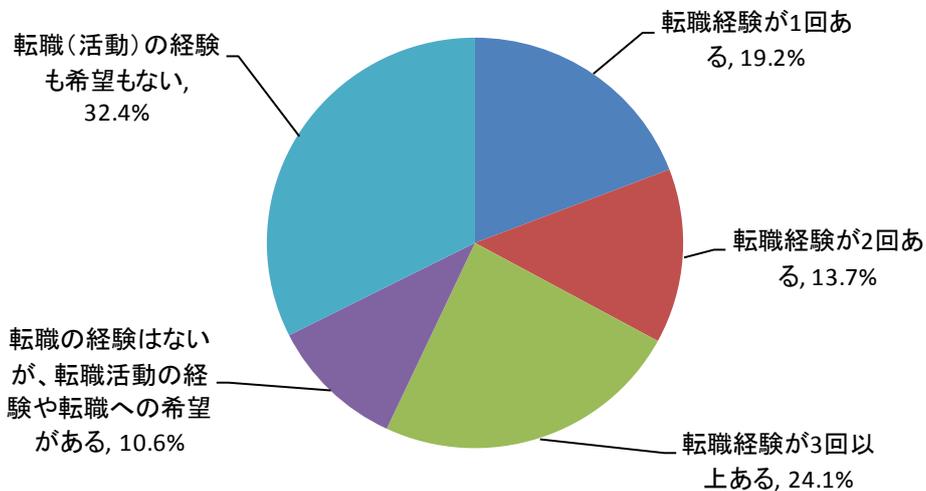
(8) 転職

① 転職経験

Q12 あなたは転職経験がありますか。ない方は、転職活動の経験や転職への希望があるかどうかお答えください。(n=2,064)

※転職とは、正社員（被雇用者）であった会社を退職して、その後、正社員（被雇用者）になった時点で1回とする。

- ・ 「転職（活動）の経験も希望もない」が32.4%で最も多く、次いで、「転職経験が3回以上ある」が24.1%あり、転職経験がある人は、何度か転職を行う傾向にある。
- ・ 転職を1回以上行った経験のある人は、57.0%で全体の半数を超える。



【性別】

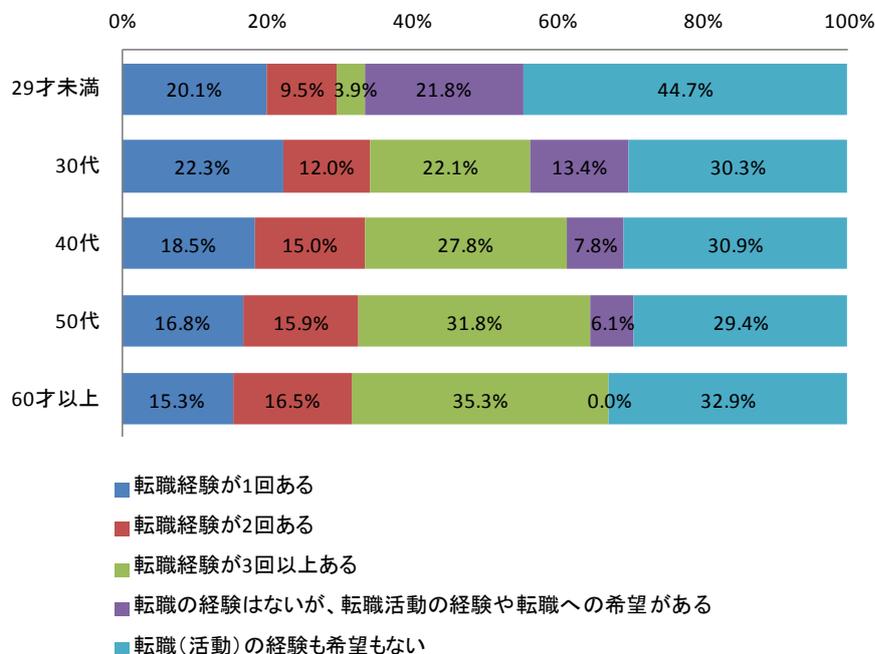
- ・ 転職経験に男女の差は殆どない。



- 転職経験が1回ある
- 転職経験が2回ある
- 転職経験が3回以上ある
- 転職の経験はないが、転職活動の経験や転職への希望がある
- 転職（活動）の経験も希望もない

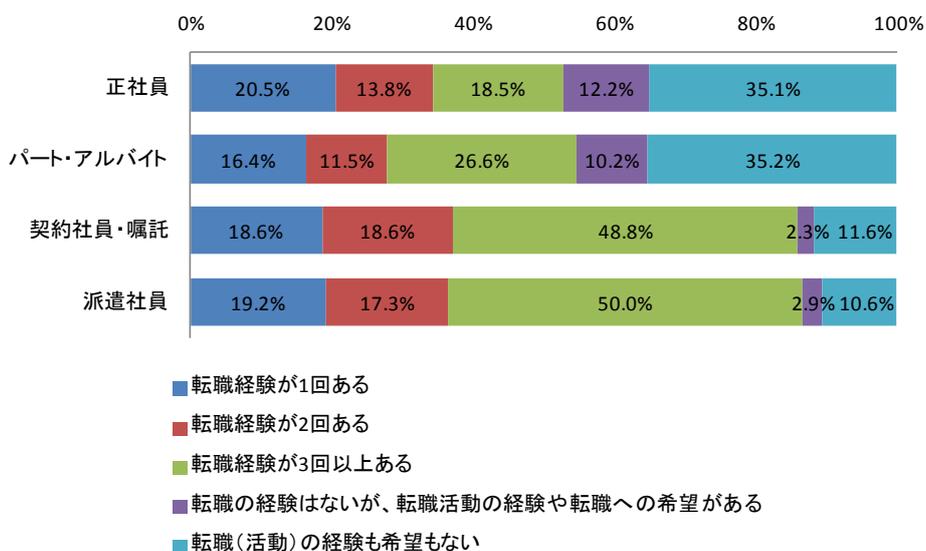
【年齢階層別】

- ・ 「29才未満」は、転職経験のある人が33.5%と、他の年齢階層に比べて少ない。また、年齢階層が上がるにつれて転職経験が増える傾向にある。
- ・ 「50代」や「60才以上」では、「転職経験が3回以上ある」が、それぞれ31.8%、35.3%となり、「転職（活動）の経験も希望もない」を上回る。



【就業形態別】

- ・ 「契約社員・嘱託」及び「派遣社員」では、「転職経験が3回以上ある」が、それぞれ48.8%、50.0%と約半数に達している。
- ・ 「正社員」及び「パート・アルバイト」では、「転職（活動）の経験も希望もない」が、それぞれ35.1%、35.2%となり、他の就業形態に比べて突出している。

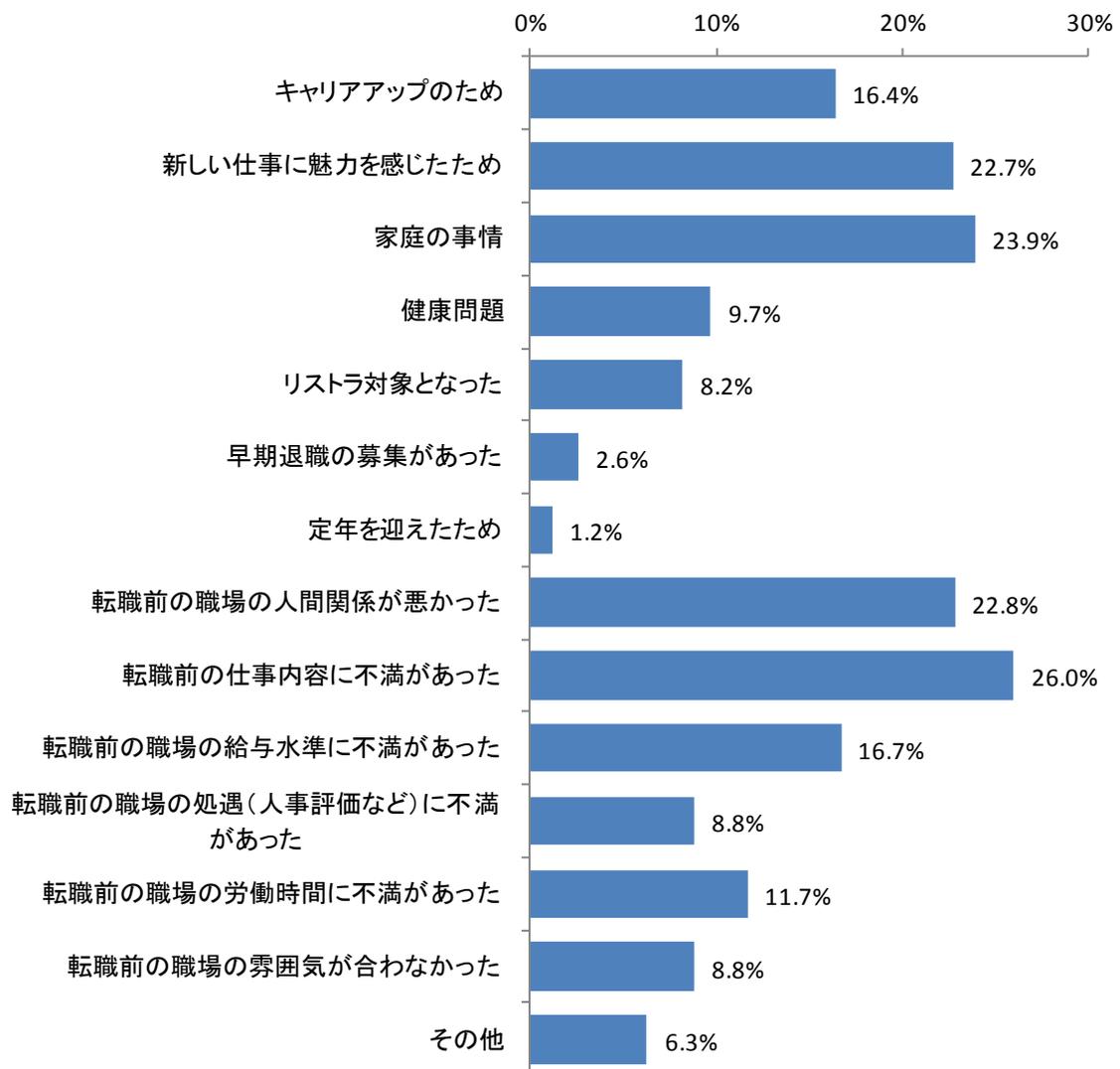


② 転職した理由

(転職経験がある人に限定)

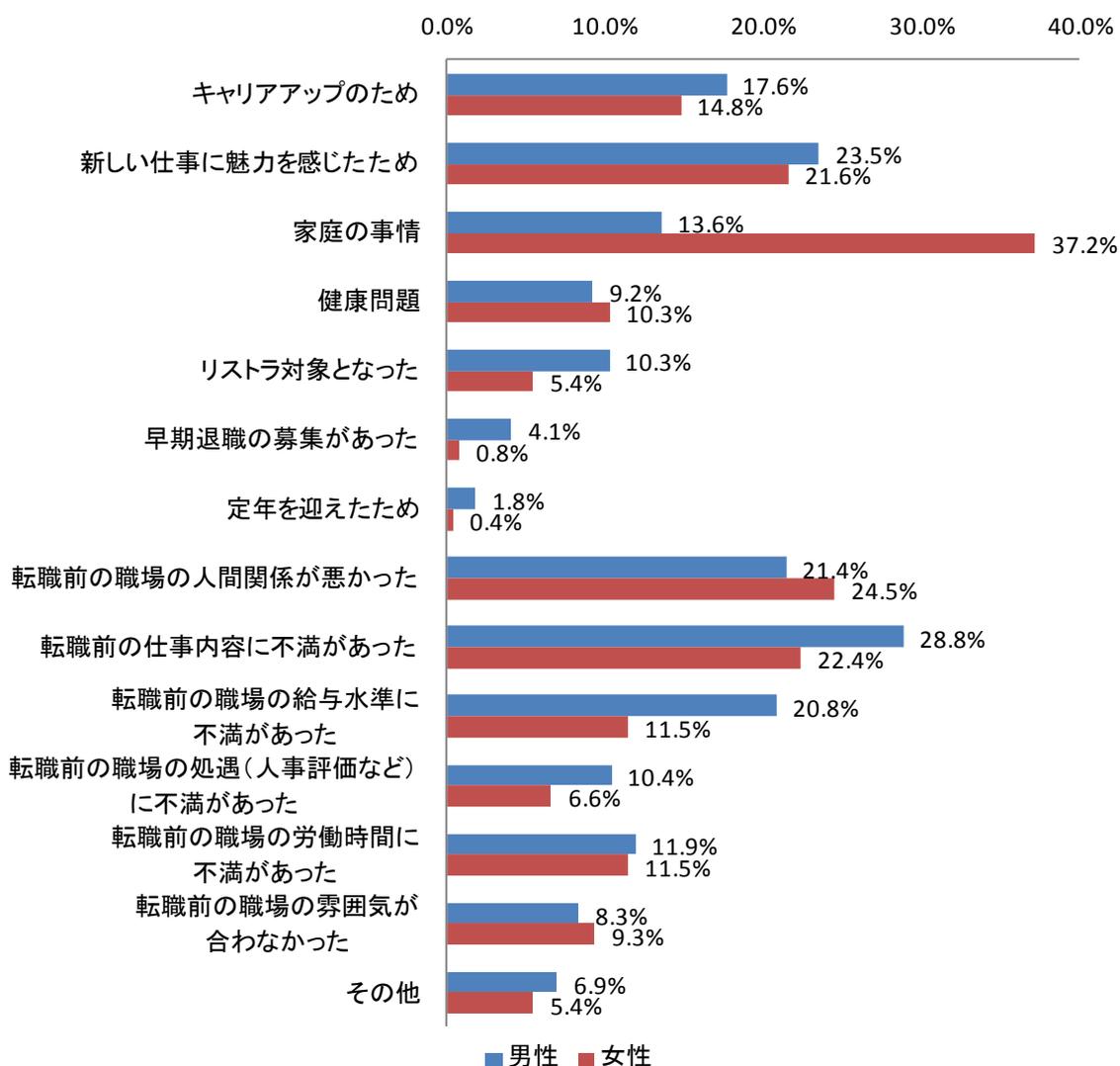
Q13 あなたが転職した理由について、当てはまるものを3つまで選んでください。※複数回、転職をしている方は全ての転職についてお考えください。(n=1177)

- ・ 「転職前の仕事内容に不満があった」が26.0%で最も多いが、次いで、「家庭の事情」が23.9%、「転職前の職場の人間関係が悪かった」が22.8%、「新しい仕事に魅力を感じたため」が22.7%と理由は分散傾向にある。



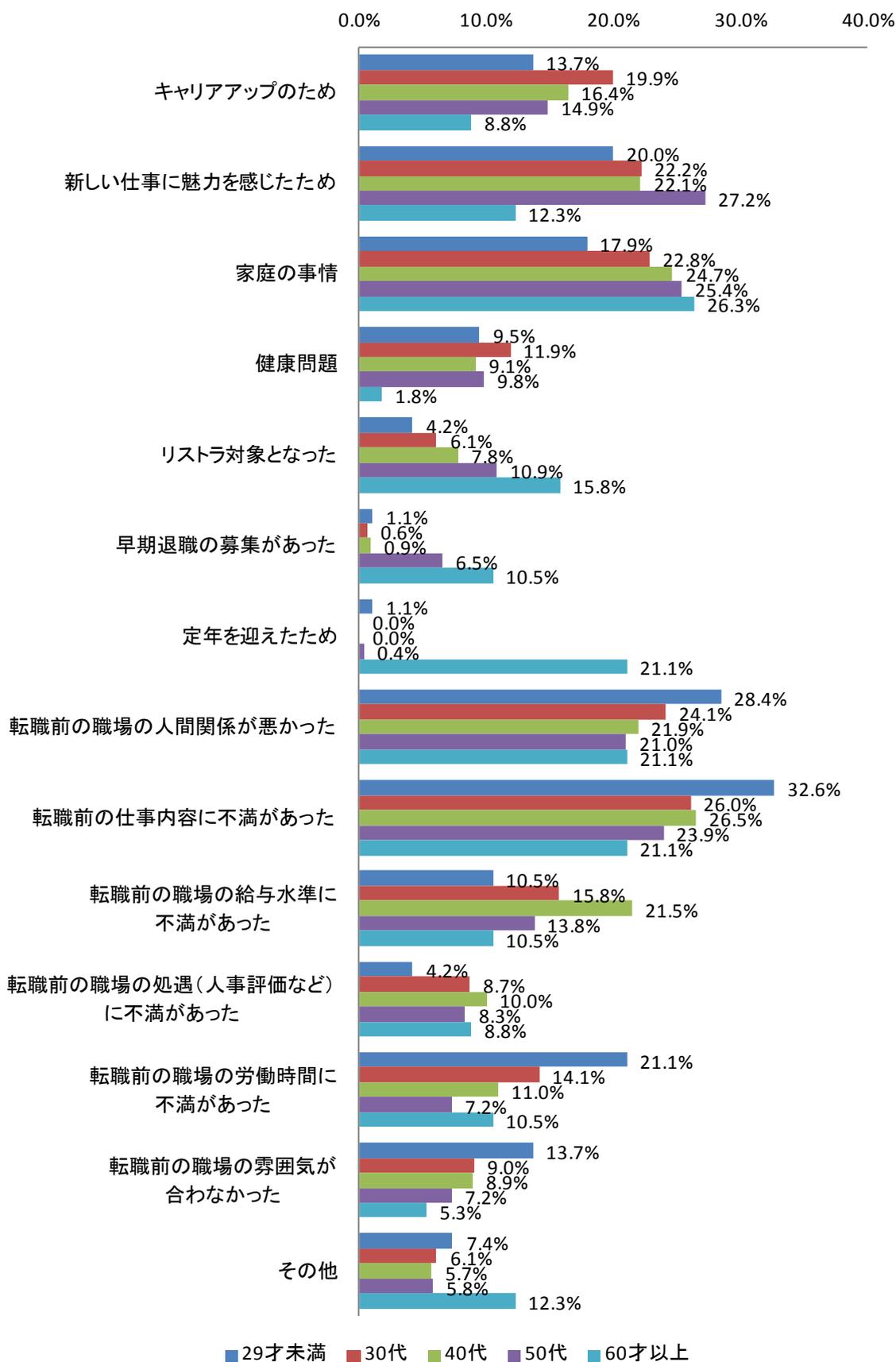
【性別】

- ・ 「男性」は、「転職前の仕事内容に不満があった」が28.8%で最も多いが、次いで、「新しい仕事に魅力を感じたため」が23.5%、「転職前の職場の人間関係が悪かった」が21.4%、「転職前の職場の給与水準に不満があった」が21.4%と分散傾向にある。
- ・ 「女性」は、「家庭の事情」が37.2%と多く、他の項目に比べて突出している。



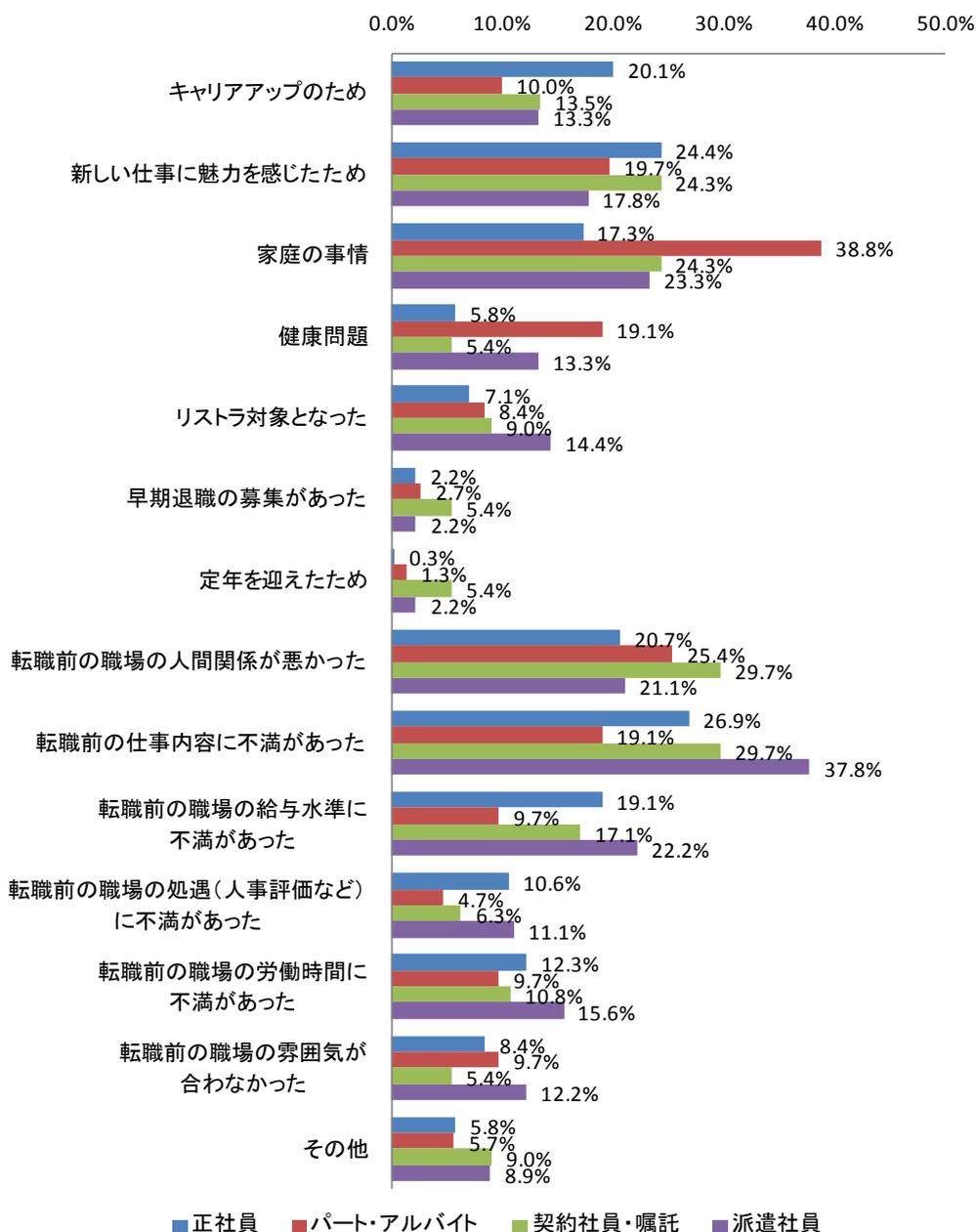
【年齢階層別】

- ・ 「29才未満」では、「転職前の仕事内容に不満があった」が32.6%で最も多く、次いで、「転職前の職場の人間関係が悪かった」が28.4%となる。これら2項目は年齢階層が下がるにつれて高まる傾向が見られる。また、「転職前の職場の労働時間に不満があった」は21.1%あり、他の年齢階層と比べて突出して高くなっており、「29才未満」では職場環境に対する不満が転職の大きな要因となっている。
- ・ 「30代」では、「キャリアアップのため」が19.9%で、他の年齢階層と比べて突出して高い。
- ・ 「40代」では、「転職前の職場の給与水準に不満があった」が21.5%で、他の年齢階層と比べて突出して高い。



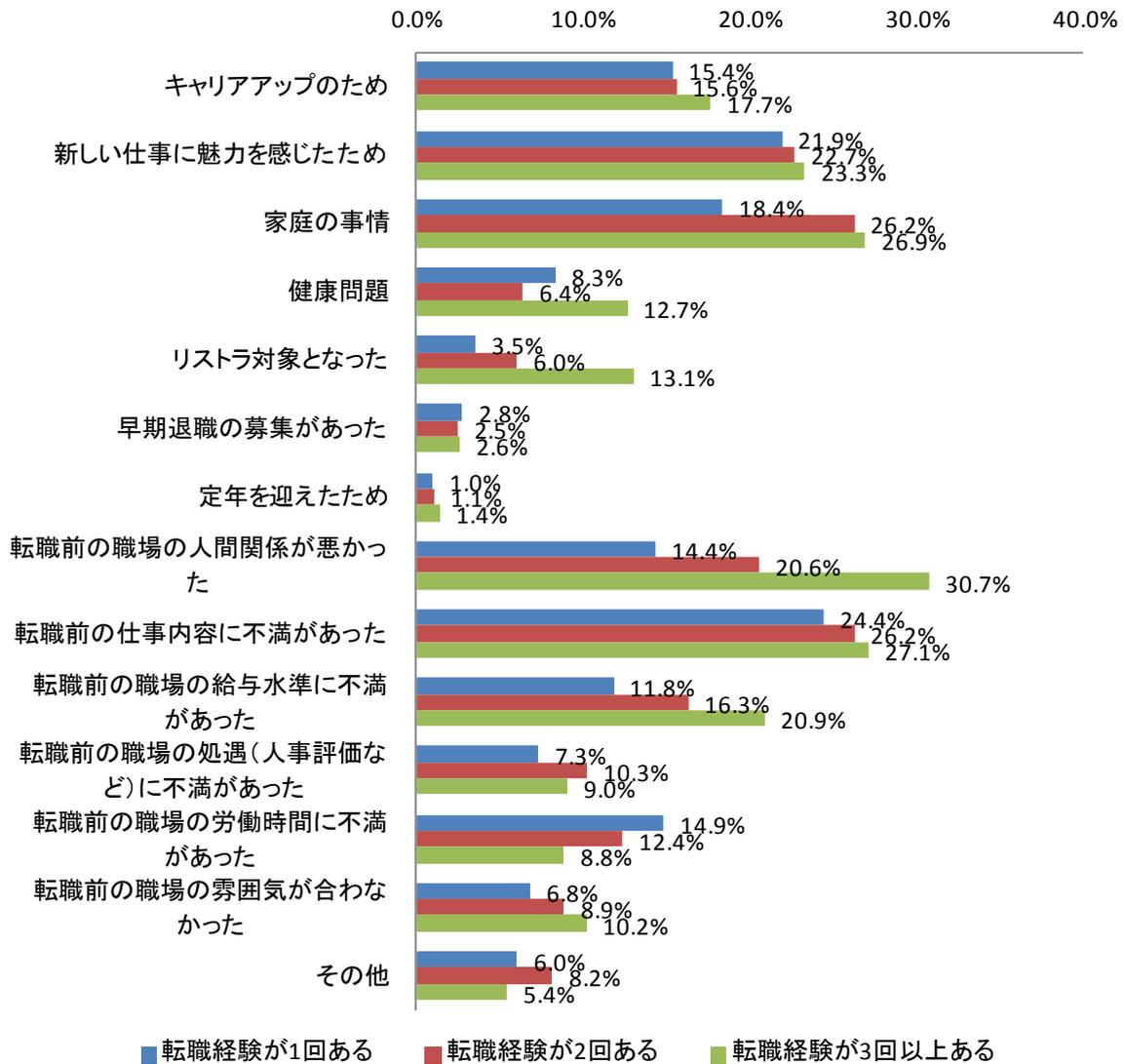
【就業形態別】

- ・ 「正社員」は、「転職前の職場の給与水準に不満があった」が26.9%で最も多いものの、「新しい仕事に魅力を感じたため(24.4%)」や「転職前の職場の人間関係が悪かった(20.7%)」、「キャリアアップのため(20.1%)」等、理由は様々である。
- ・ 「パート・アルバイト」では、「家庭の事情」が38.8%で、他の理由と比べて突出しているとともに、他の就業形態を大きく上回る。
- ・ 「契約社員・嘱託」は、「転職前の職場の人間関係が悪かった」及び「転職前の仕事内容に不満があった」が、ともに29.7%で最も多い。
- ・ 「派遣社員」は、「転職前の仕事内容に不満があった」が37.8%であり、他の理由と比べて突出しているとともに、他の就業形態を大きく上回る。



【転職回数別】

- ・ 「転職前の職場の人間関係が悪かった」や「転職前の職場の給与水準に不満があった」は、転職回数が増えると高まる傾向が強く表れている。

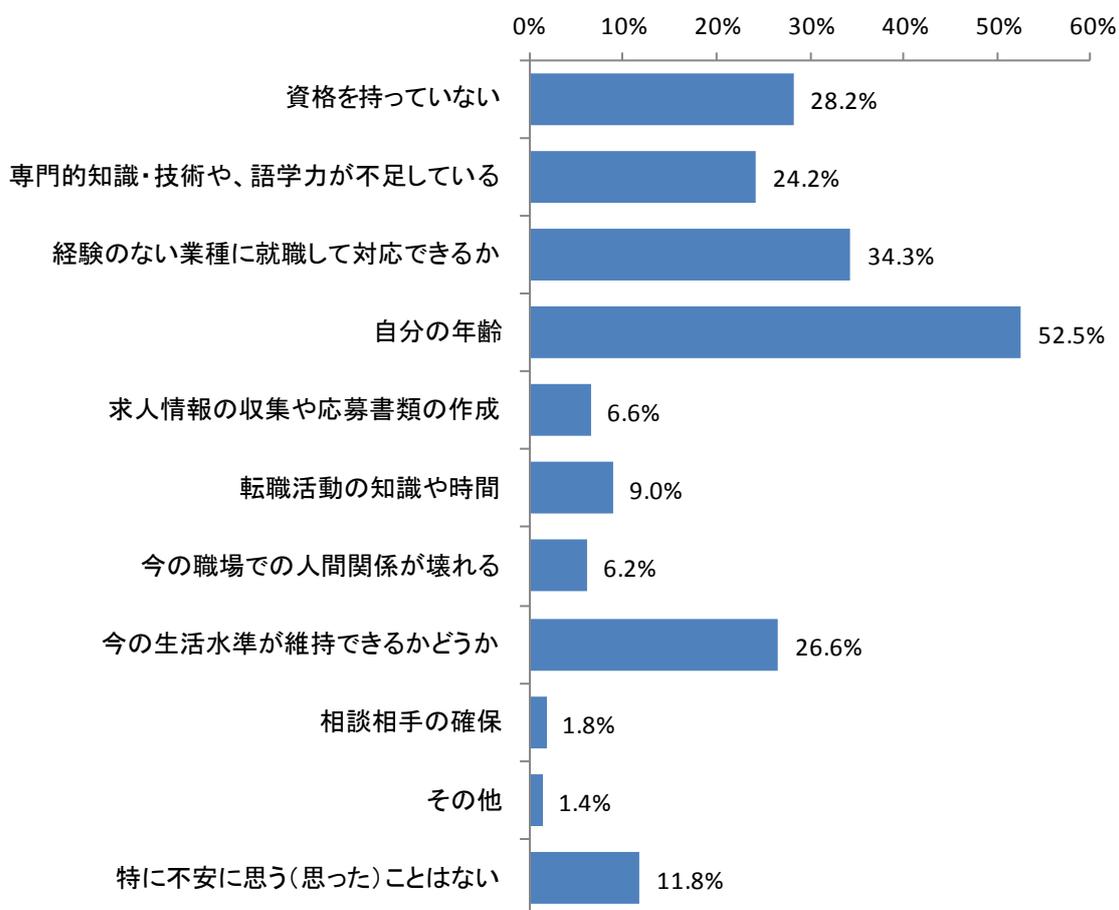


③転職を検討する際の不安

(転職経験がある人に限定)

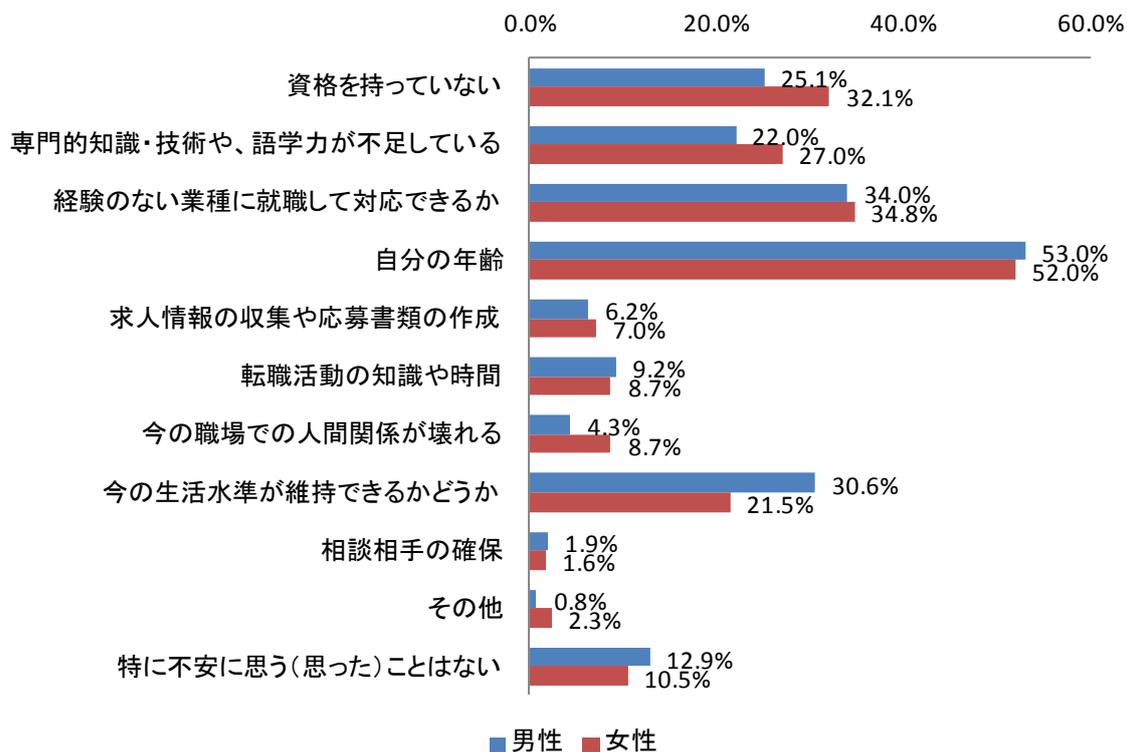
Q14 あなたが転職を検討するにあたって、不安に思う(思った)ことは何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。(n=1395)

- ・ 「自分の年齢」が52.5%で最も多く、次いで、「経験のない業種に就職して対応できるか」が34.3%となる。
- ・ この他、20%を超える要因は、「資格を持っていない」が28.2%、「今の生活水準が維持できるかどうか」が26.6%、「専門的知識・技術や、語学力が不足している」が24.2%の3項目ある。



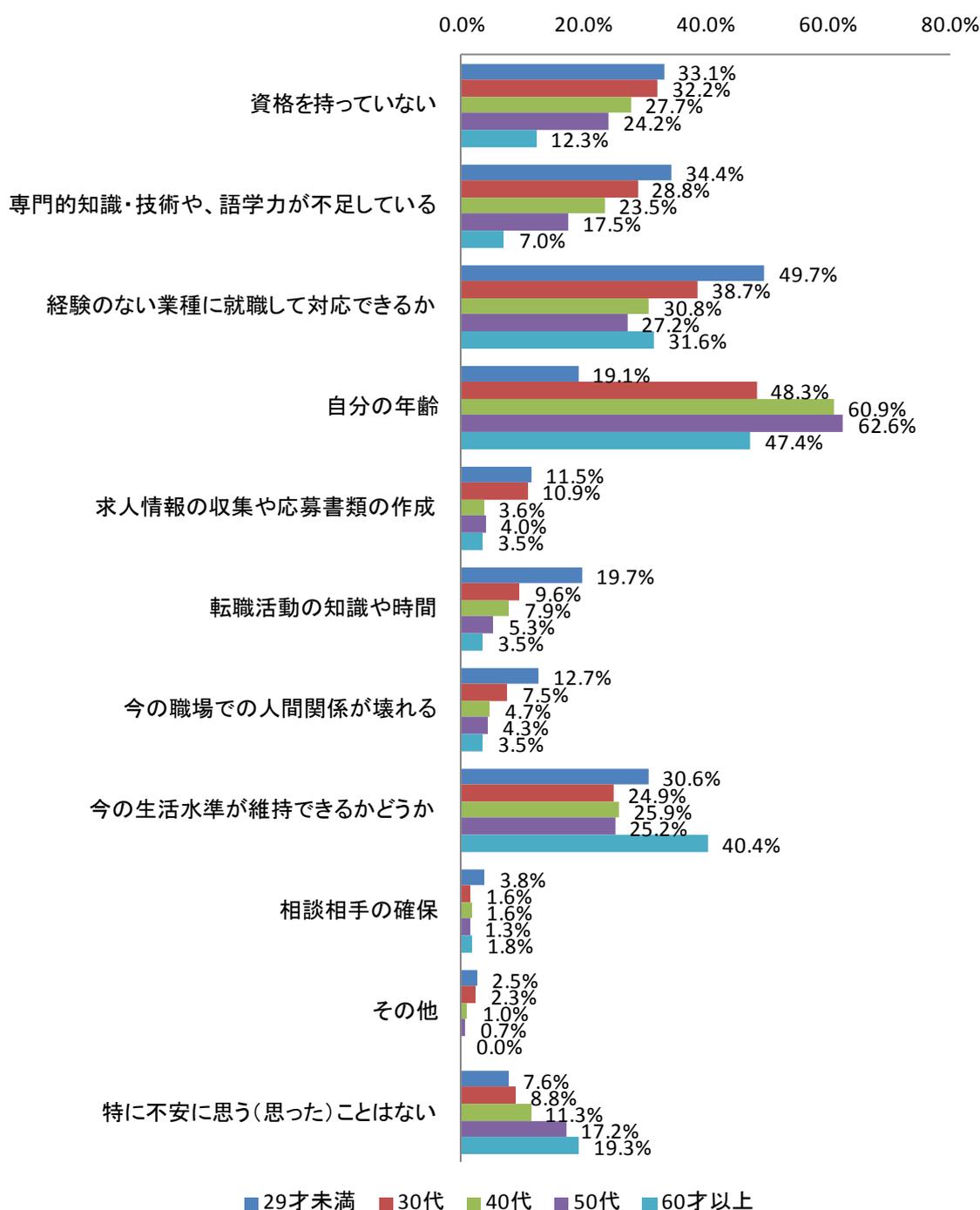
【性別】

- ・ 「男性」、「女性」ともに上位2項目に差異はなく、「自分の年齢」が、それぞれ53.0%、52.0%で突出しており、次いで、「経験のない業種に就職して対応できるか」が、それぞれ34.0%、34.8%となっている。
- ・ 「男性」は、「今の生活水準が維持できるかどうか」が30.6%で、女性の21.5%を9.1ポイント上回る。一方、「女性」は、「資格を持っていない」が32.1%で、男性の25.1%を7.0ポイント上回り、性別の違いによる固有の要因が現れている。



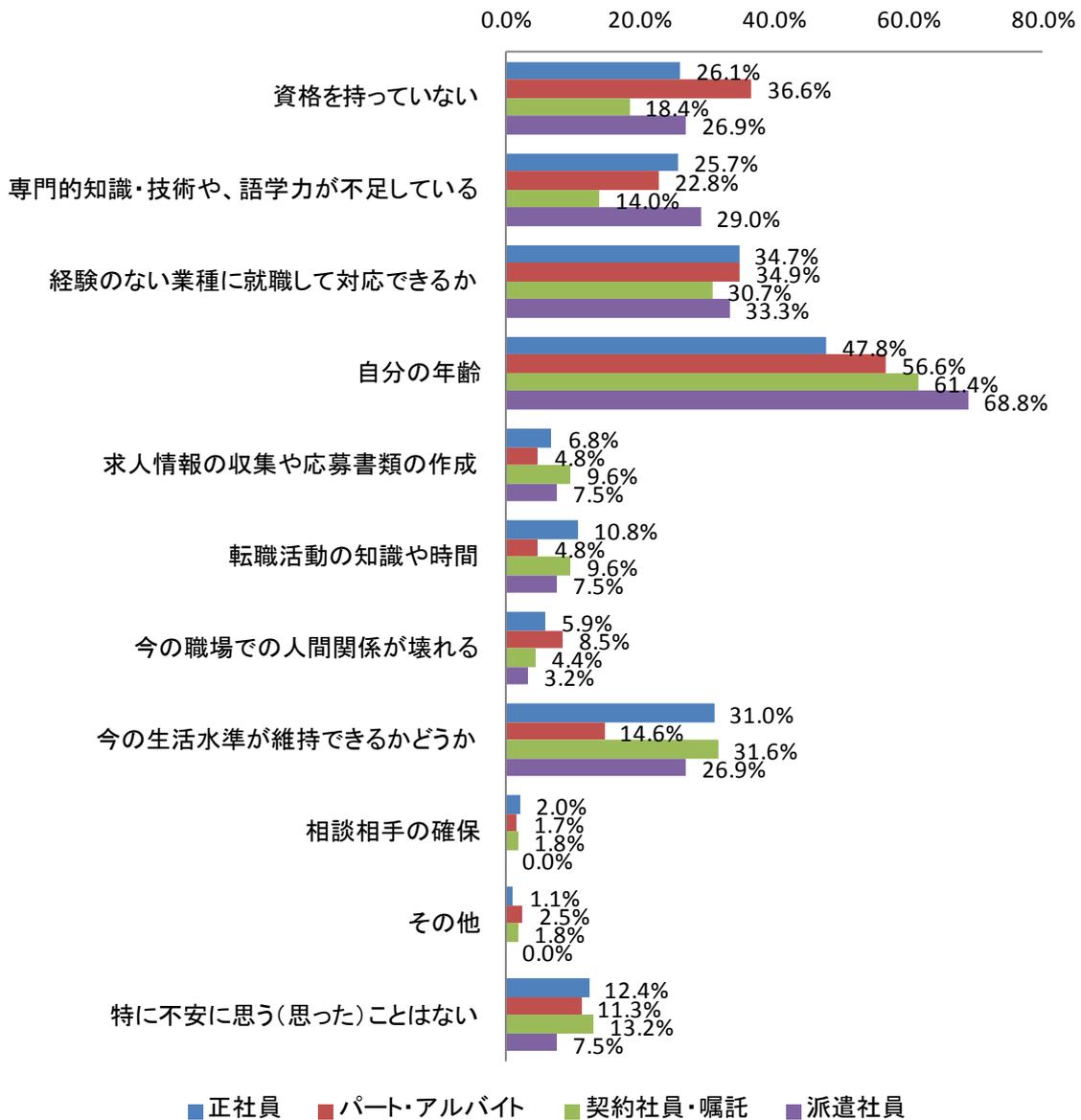
【年齢階層別】

- ・ 「40代」及び「50代」では、「自分の年齢」が、それぞれ60.9%、62.6%と多く、非常に大きな要因となっており、他の年齢階層を大きく上回る。
- ・ 「29才未満」では、「経験のない業種に就職して対応できるか」が49.7%で最も多く、次いで、「専門的知識・技術や、語学力が不足している」が34.4%、「資格を持っていない」が33.1%となり、これら個人の能力に起因する3項目は年齢が下がるにつれて高まる傾向が見られる。
- ・ 「60才以上」は、「自分の年齢」が47.4%で最も多いが、次いで、「今の生活水準が維持できるかどうか」が40.4%となり、他の年齢階層に比べて突出している。



【就業形態別】

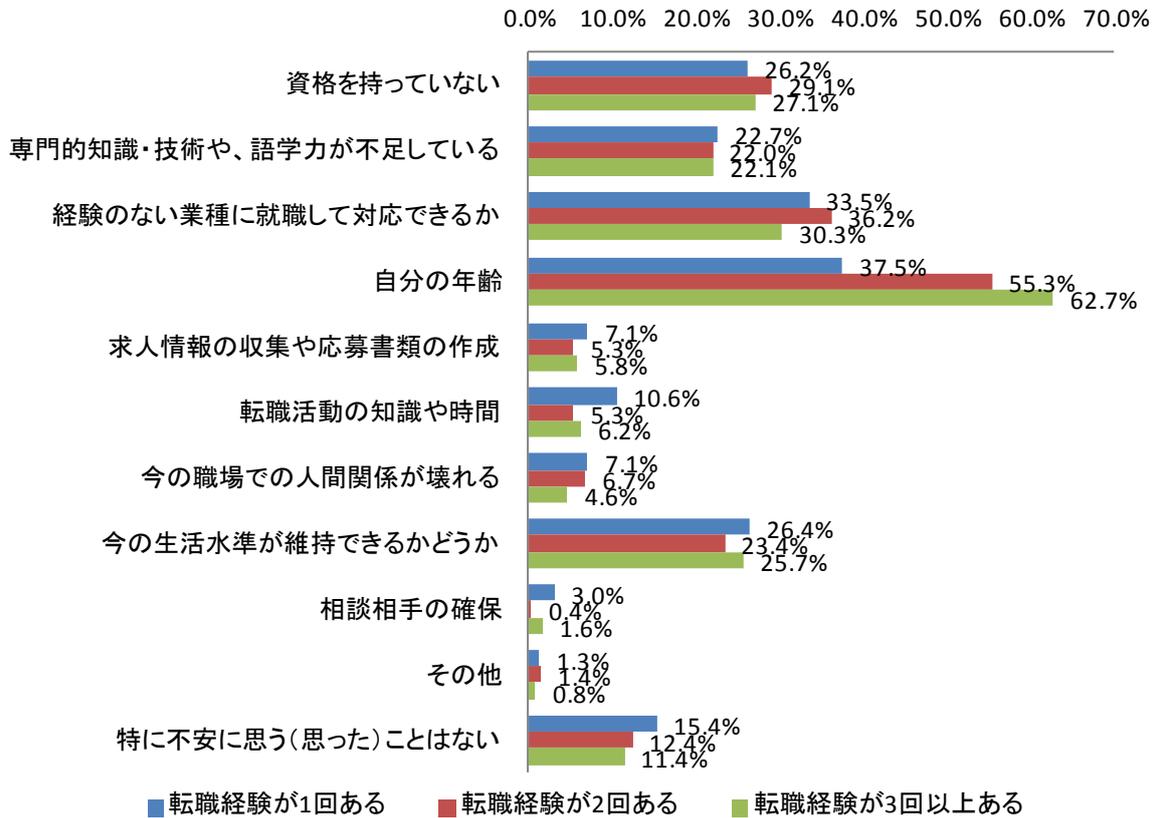
- ・ 全ての就業形態において、「自分の年齢」が最も多い。
- ・ 「パート・アルバイト」では、「資格を持っていない」が36.6%あり、他の就業形態と比べて突出している。



c

【転職回数別】

- ・ 「転職前の職場の人間関係が悪かった」や「転職前の職場の給与水準に不満があった」は、転職回数が増えると高まる傾向が強く表れている。
- ・ 転職回数が増えるほど、「自分の年齢」が高まる傾向にあるが、単に年齢を重ねているためである。
- ・ この他、転職回数による要因の違いは見られない。

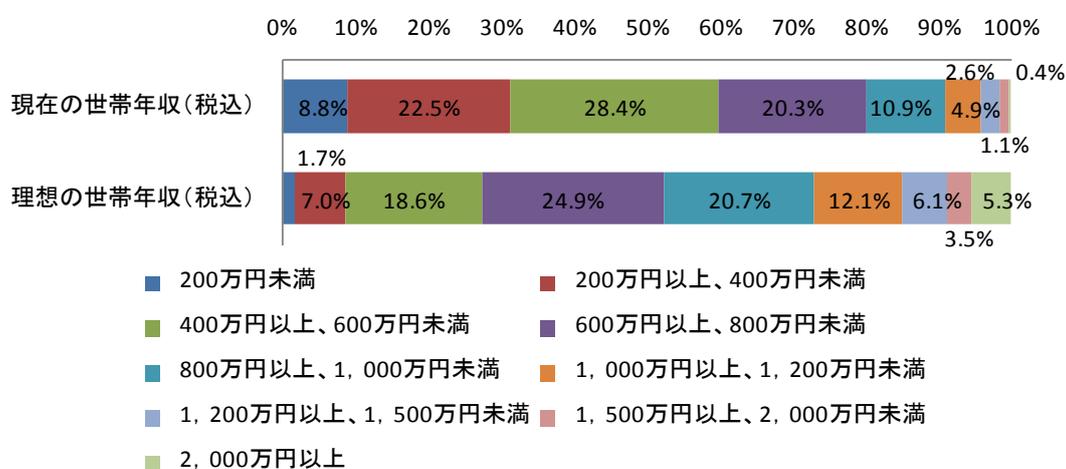


(9) 世帯年収

①現状と理想

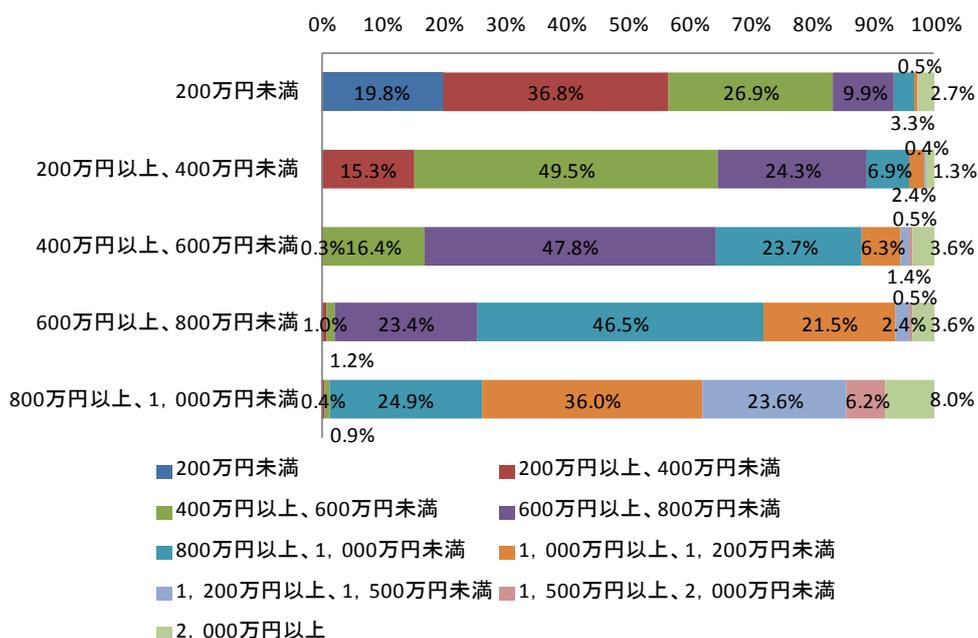
Q15 あなたの世帯年収（税込）をお答えください。また、理想の世帯年収としては、どの程度であるかと思いませんか。最もあてはまるものをそれぞれお答えください。（n=2,064）

- ・ 「現在の世帯年収」は、「400万円以上、600万円未満」が28.4%で最も多く、次いで、「200万円以上、400万円未満」が22.5%、「600万円以上、800万円未満」が20.3%となる。また、「200万円未満」は8.8%、「1,000万円以上」は9.0%となる。
- ・ 「理想の世帯年収」は、現在のものよりも同等もしくは高い金額を示す傾向にあり、「600万円以上、800万円未満」が最も多く、次いで、「800万円以上、1,000万円未満」が20.7%、「400万円以上、600万円未満」が18.6%となる。



【現在の世帯年収による階層別】

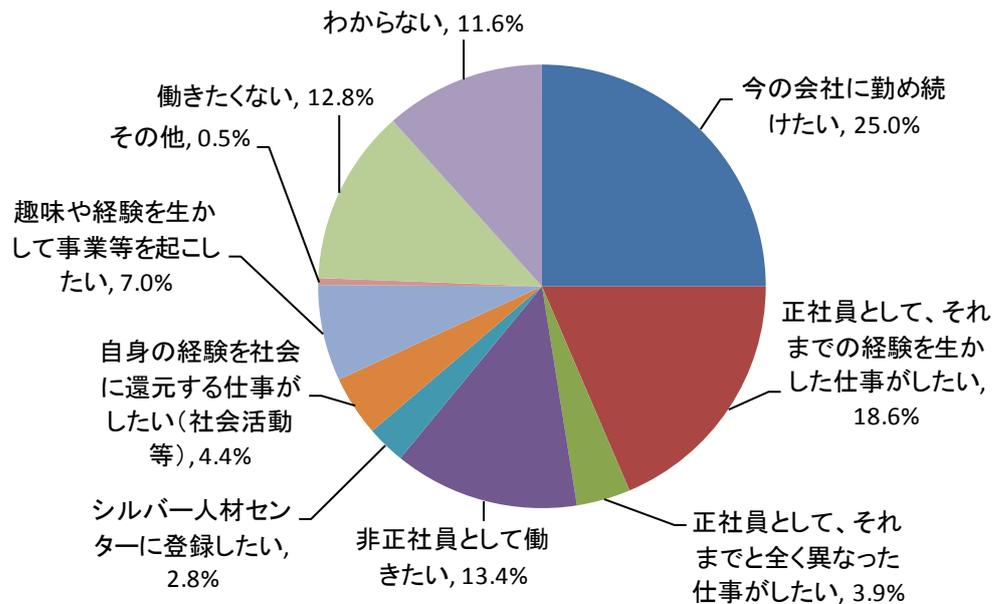
- ・ 「現在の世帯年収」が1,000万円未満と回答した人について、世帯年収階層別に「理想の世帯年収」を見ると、いずれの階層も、現在を1段階上回る階層を選択する割合が最も高い。



(10) 高齢者になってからの働き方

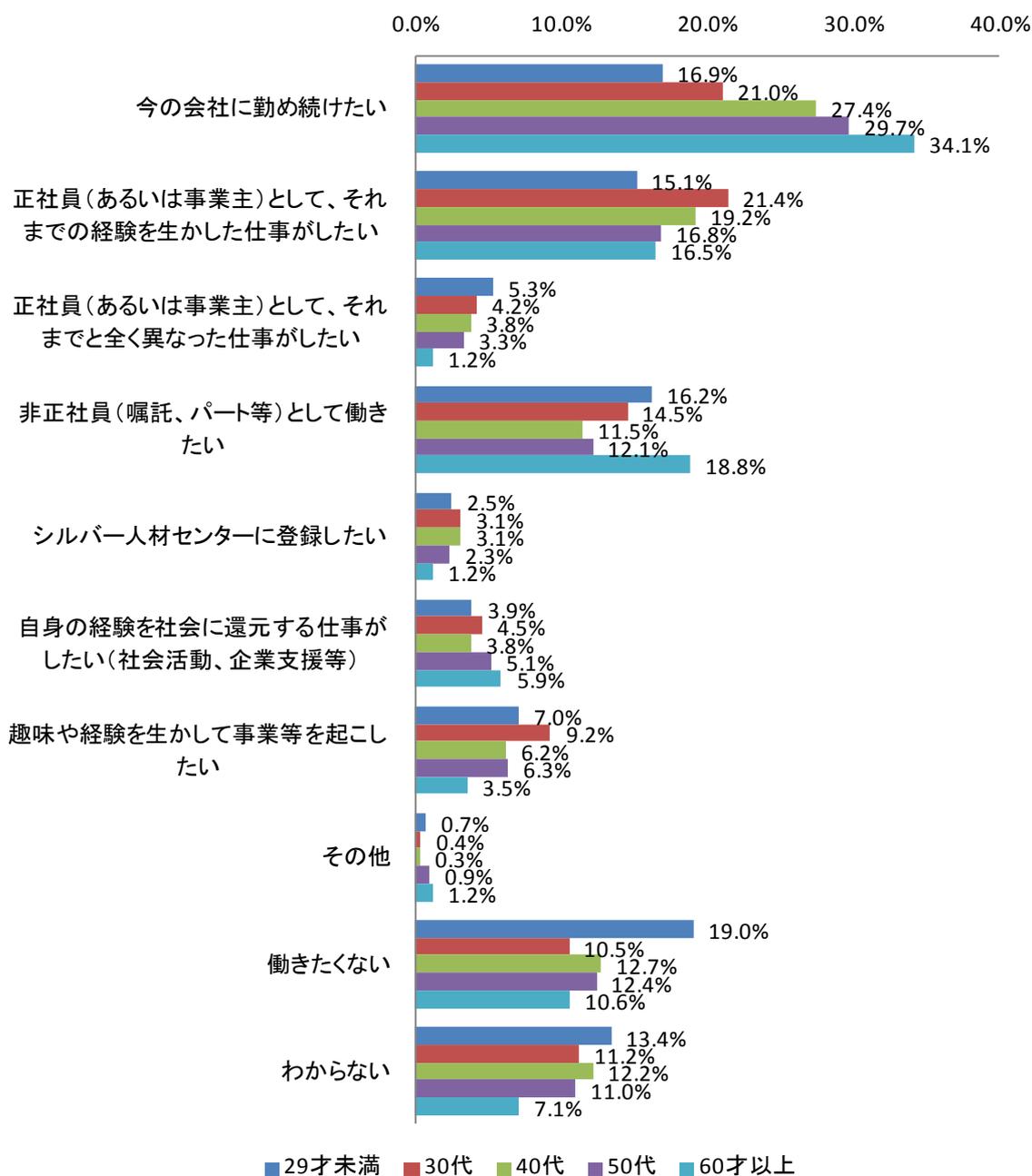
Q16 あなたは、高齢者になってから、どのような働き方をしたいと思いますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。(n=2,064)

- ・ 「今の会社に勤め続けたい」が25.0%で最も多く、次いで、「正社員として、それまでの経験を生かした仕事がしたい」が18.6%となり、これまでの延長線上で働きたい割合が43.6%となる。



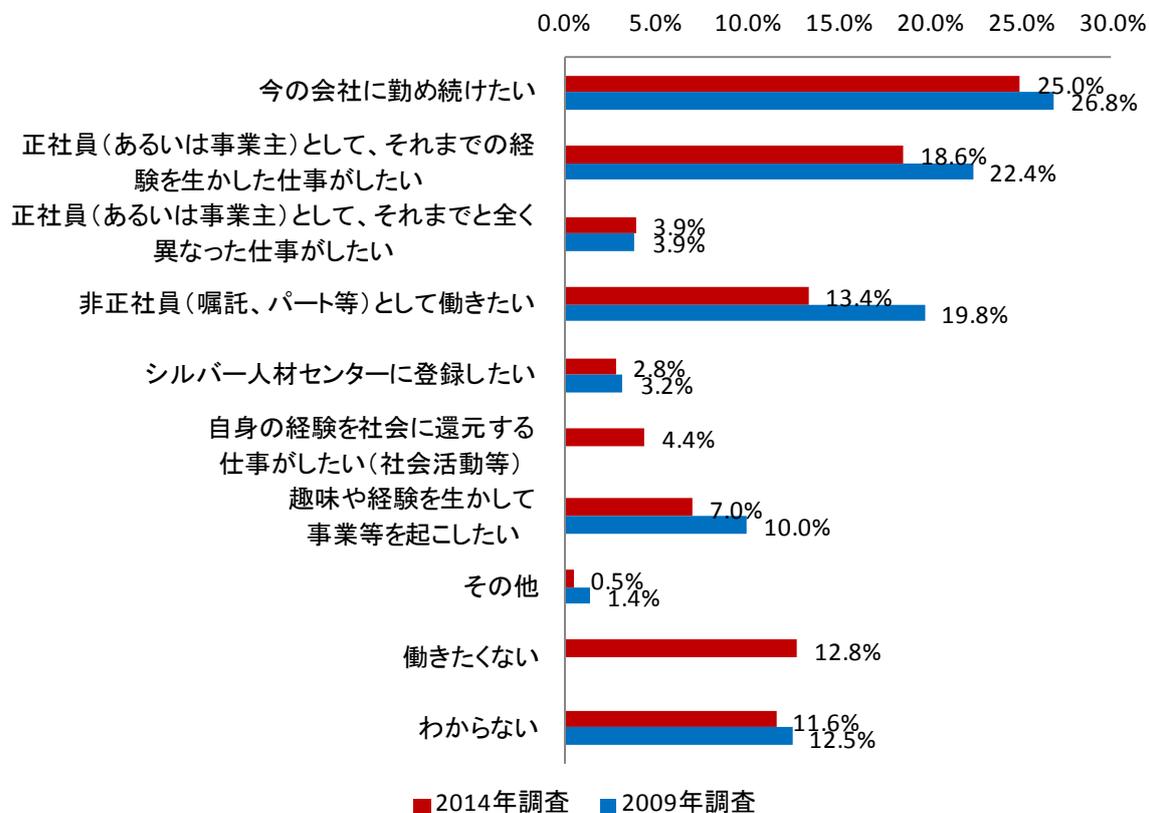
【年齢階層別】

- ・ 「60才以上」では、「今の会社に勤め続けたい」が34.0%で最も多い。この項目は、年齢が上がるにつれて高まる傾向にある。
- ・ 高齢者になるのを控えた「50代」では、「今の会社に勤め続けたい」が29.7%で最も多いものの、「正社員として、それまでの経験を生かした仕事がしたい」が16.8%、「非正社員として働きたい」が12.1%、「働きたくない」が12.4%と分散傾向にある。



【前回との比較】

- ・ 2009年調査には、「働きたくない」がなかったため、上位の項目は全て減少傾向にある。特に、「非正社員として働きたい」が6.4ポイント（19.8%→13.4%）減少した。



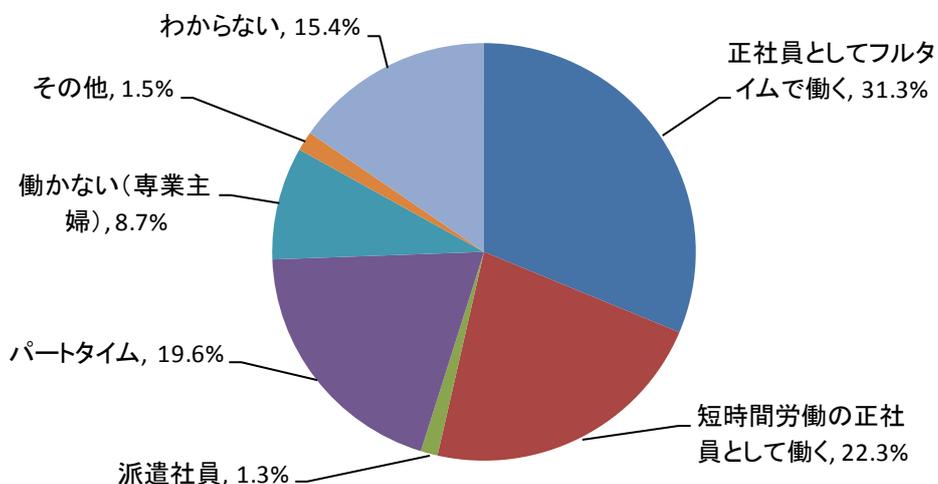
(11)仕事と育児・介護

①出産後の働き方

(子どもがいない人に限定)

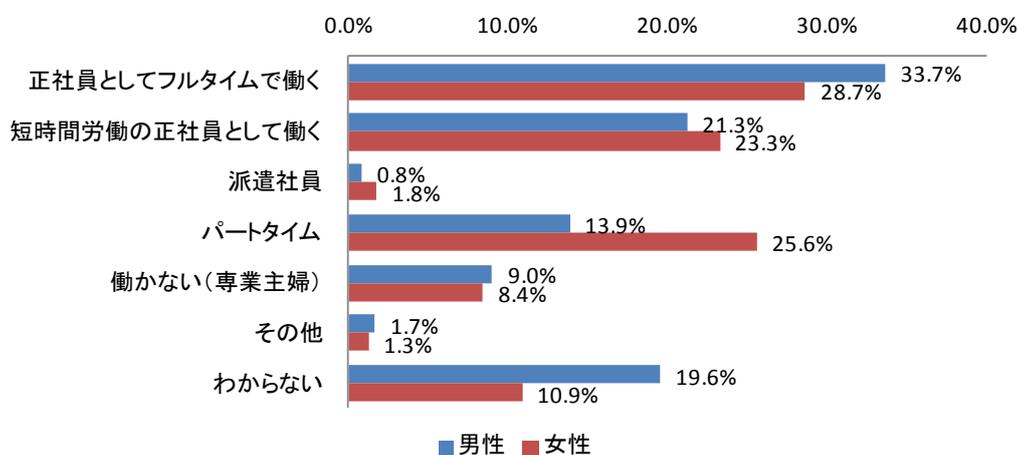
Q17 あなたは出産後、どのように働くことを希望しますか。(男性の場合は、あなたの配偶者がどのように働くことを希望しますか) (n=1,155)

- ・ 「正社員としてフルタイムで働く」が31.3%で最も多く、次いで、「短時間労働の正社員として働く」が22.3%となり、正社員として働くことを希望する人が5割を超える。
- ・ この他、「パートタイム」が19.6%、「派遣社員」が1.3%あり、何らかの就業形態で働くことを希望する割合は74.5%となる。



【性別】

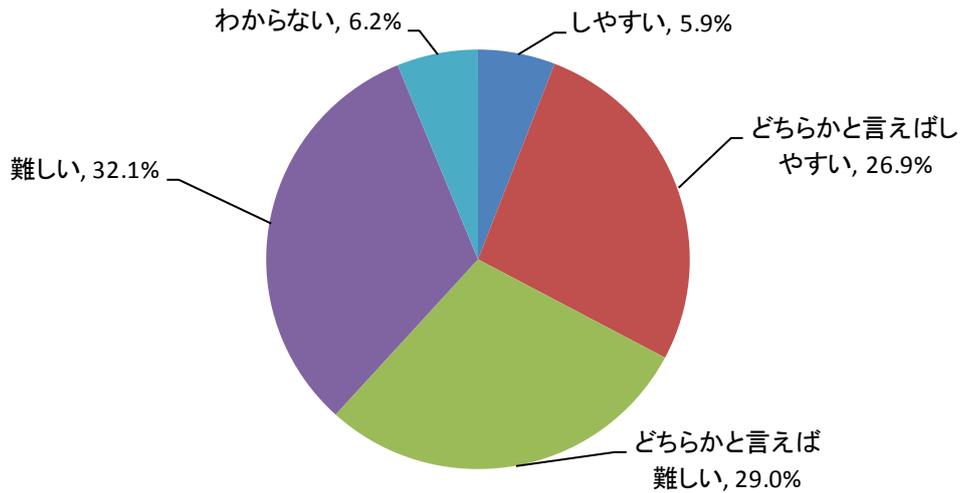
- ・ 「正社員としてフルタイムで働く」は、「男性」が33.7%で、「女性」の28.7%を上回る。
- ・ 「女性」は、「パートタイム」が25.6%で、男性よりも大幅に多い。



②仕事と育児・介護の両立

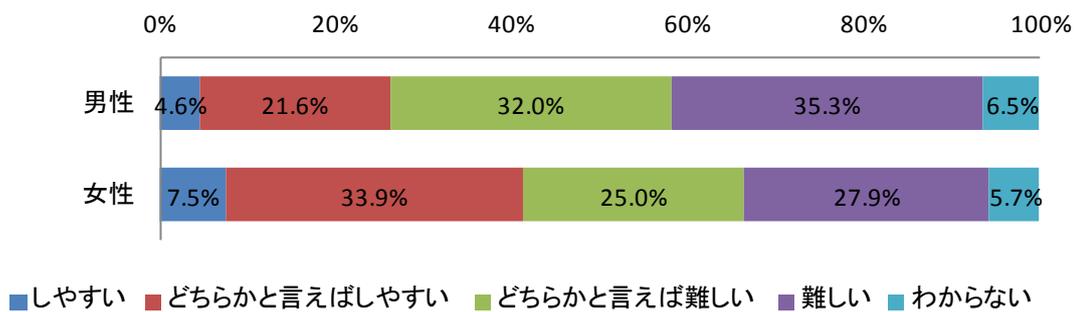
Q18 あなたの会社では、働きながら育児・介護をしやすいと思いますか。最も当てはまるものを選んでください。(n=2,064)

- ・ 「難しい」が32.1%で最も多く、次いで、「どちらかと言えば難しい」が29.1%となり、これらを合わせると、難しいとする人が6割を超える。



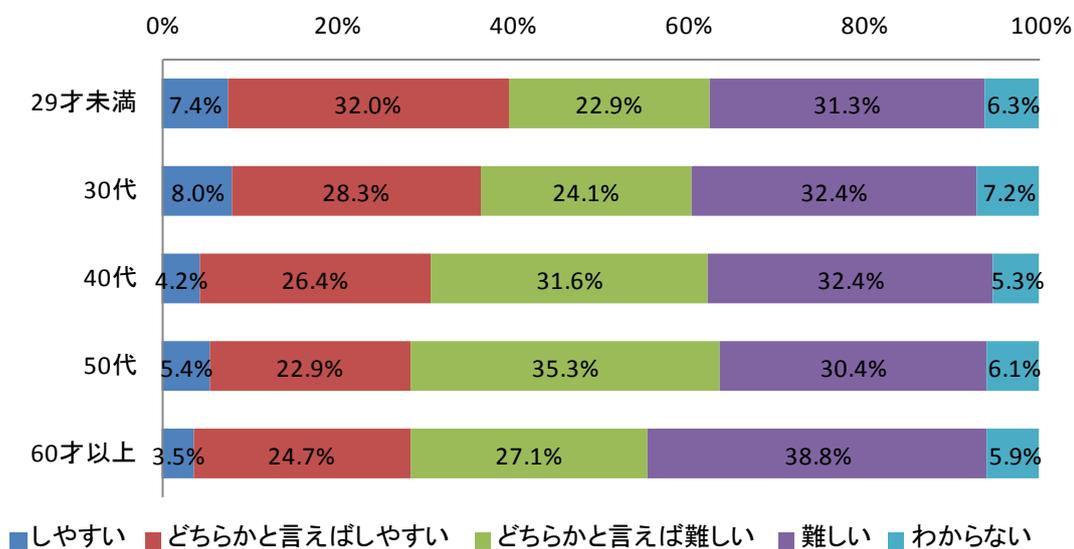
【性別】

- ・ 「男性」は、「難しい」及び「どちらかと言えば難しい」を合わせると67.3%となるが、「女性」は、52.9%となり、性別により認識がやや異なる。



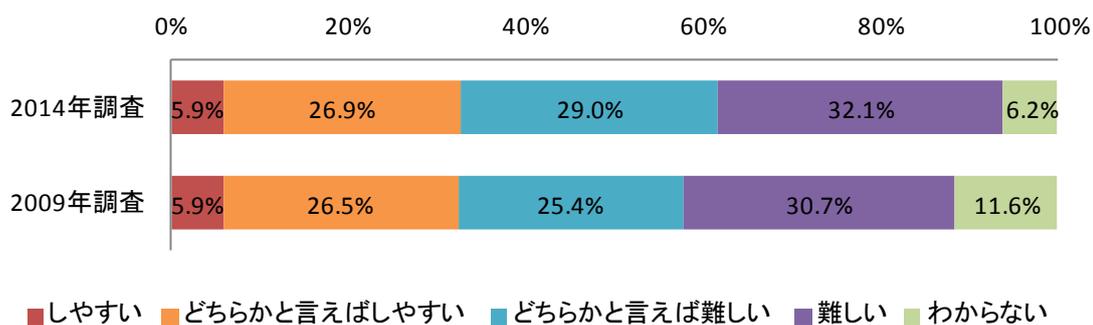
【年齢階層別】

- ・ 「しやすい」及び「どちらかと言えばしやすい」の合計は、「29才未満」が39.4%で最も多く、年齢が上がるにつれて、低くなる傾向にある。これは、若い年代では「育児」をイメージし、年齢が上がるにつれて「介護」をイメージすることが一因と推測され、介護との両立の難しさが認識されていると考えられる。



【前回との比較】

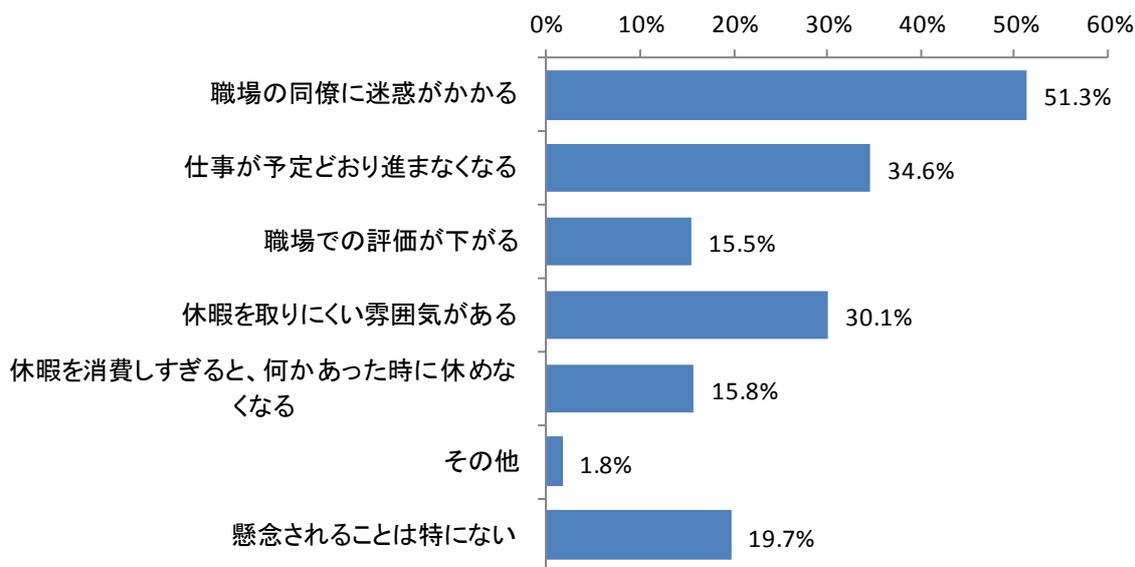
- ・ 2009年調査と比べて殆ど変化が見られず、むしろ「難しい」及び「どちらかと言えば難しい」の合計は増加しており、仕事と育児・介護を両立する環境は好転していない。



③育児・介護休暇を取得する懸念事項

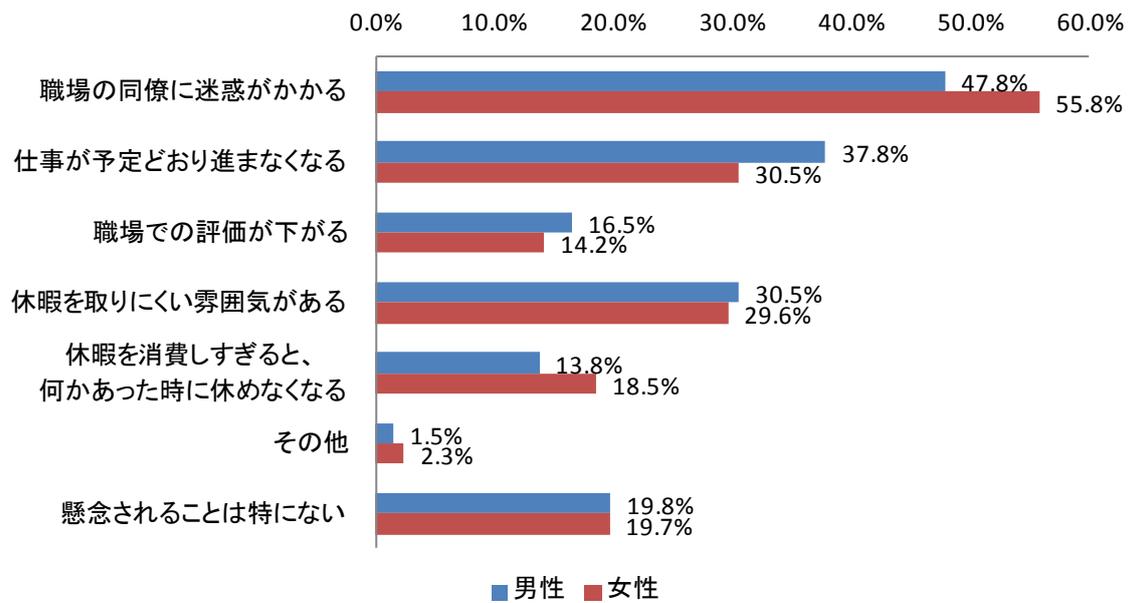
Q19 あなたの会社において、育児・介護休暇（育児・介護休業制度も含む）を取得する場合に懸念されることがありますか。当てはまるものをすべて選んでください。（n=2,064）

- ・ 「職場の同僚に迷惑がかかる」が 51.3%で最も多く、次いで、「仕事が予定どおり進まなくなる」が 34.6%、「休暇を取りにくい雰囲気がある」が 30.1%となり、休暇取得による不在時を埋め合わせできる人材が十分にならないと考えられる。
- ・ 「懸念されることは特にない」は 19.7%となる。



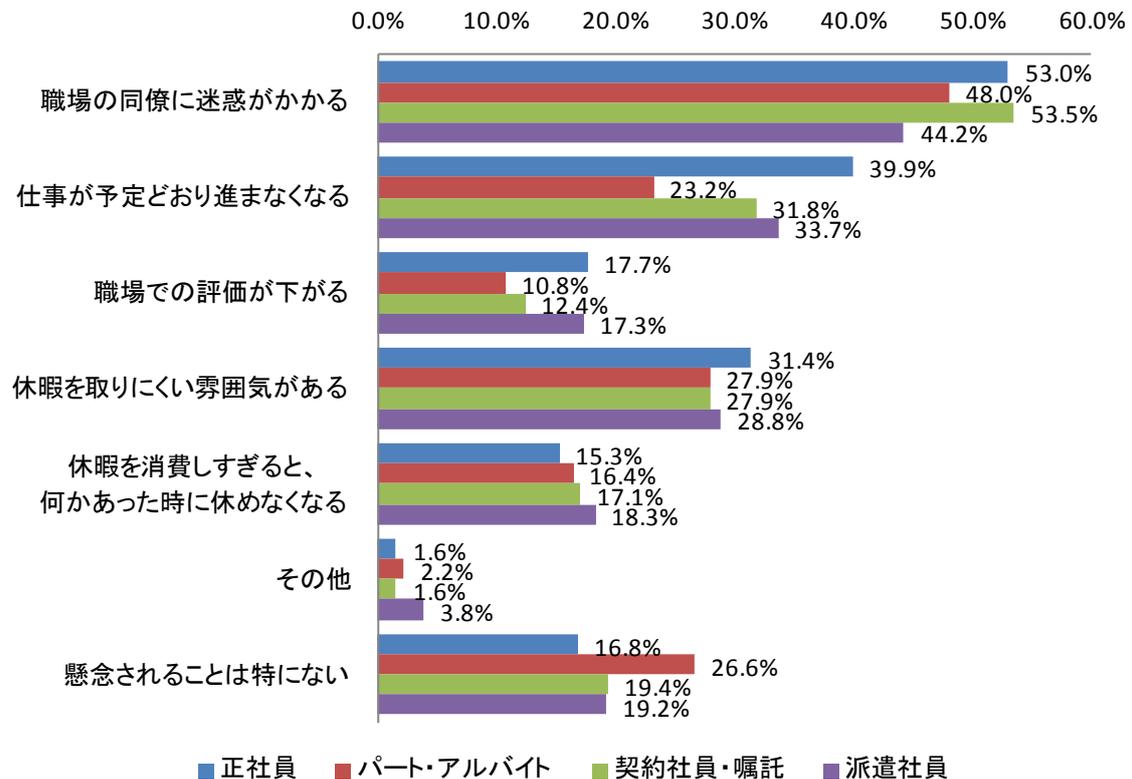
【性別】

- ・ 性別の違いによる上位3項目の順位は変わらない。
- ・ 「男性」は、「仕事が予定どおり進まなくなる」が 37.8%で、「女性」の 30.5%を 7.3 ポイント上回り、会社への影響を重視する傾向がうかがえる。
- ・ 「女性」は、「職場の同僚に迷惑がかかる」が 55.8%で、「男性」の 47.8%を 8.0 ポイント上回り、人間関係を重視する傾向がうかがえる。



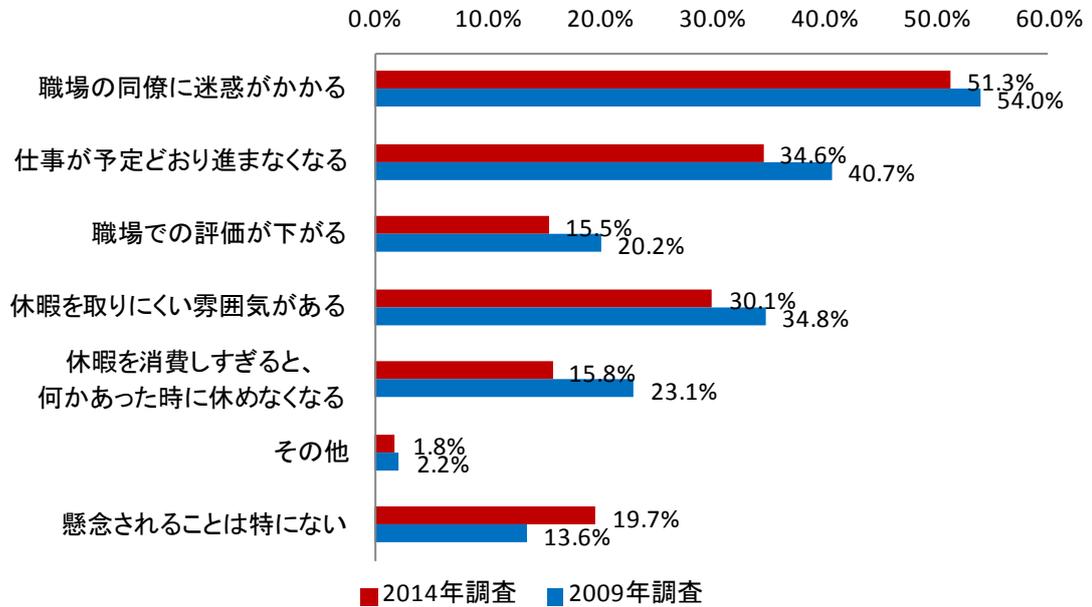
【就業形態別】

- ・ 全ての就業形態において、「職場の同僚に迷惑がかかる」が最も多くなる。
- ・ 「正社員」及び「契約社員・嘱託」、「派遣社員」の回答傾向は同じであるが、特に「正社員」では、「仕事が予定どおり進まなくなる」が39.9%で、他の就業形態よりも突出して高い。
- ・ 「パート・アルバイト」では、「懸念されることは特にない」が26.6%あり、他の就業形態を大きく上回る。



【前回との比較】

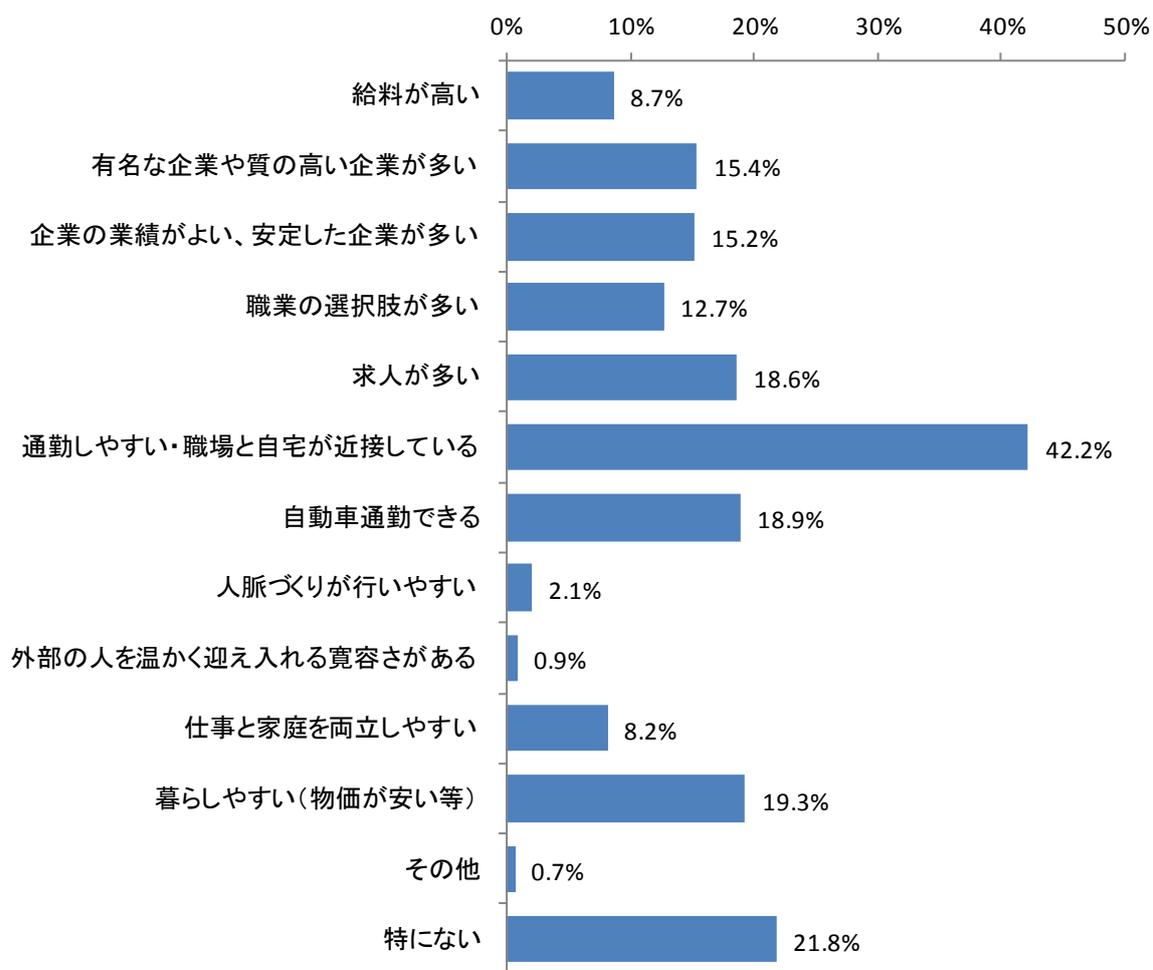
- ・ 2009年調査と比べて、「懸念されることは特にない」が6.1ポイント増加（13.6%→19.7%）し、また、各項目も全般的に低下している。
- ・ 前問にて、仕事と育児・介護を両立する環境は好転していないものの、懸念事項は若干少なくなっており、仕事と育児・介護の両立に対する意識が高まったと推測される。



(12) 愛知県内で働くメリット

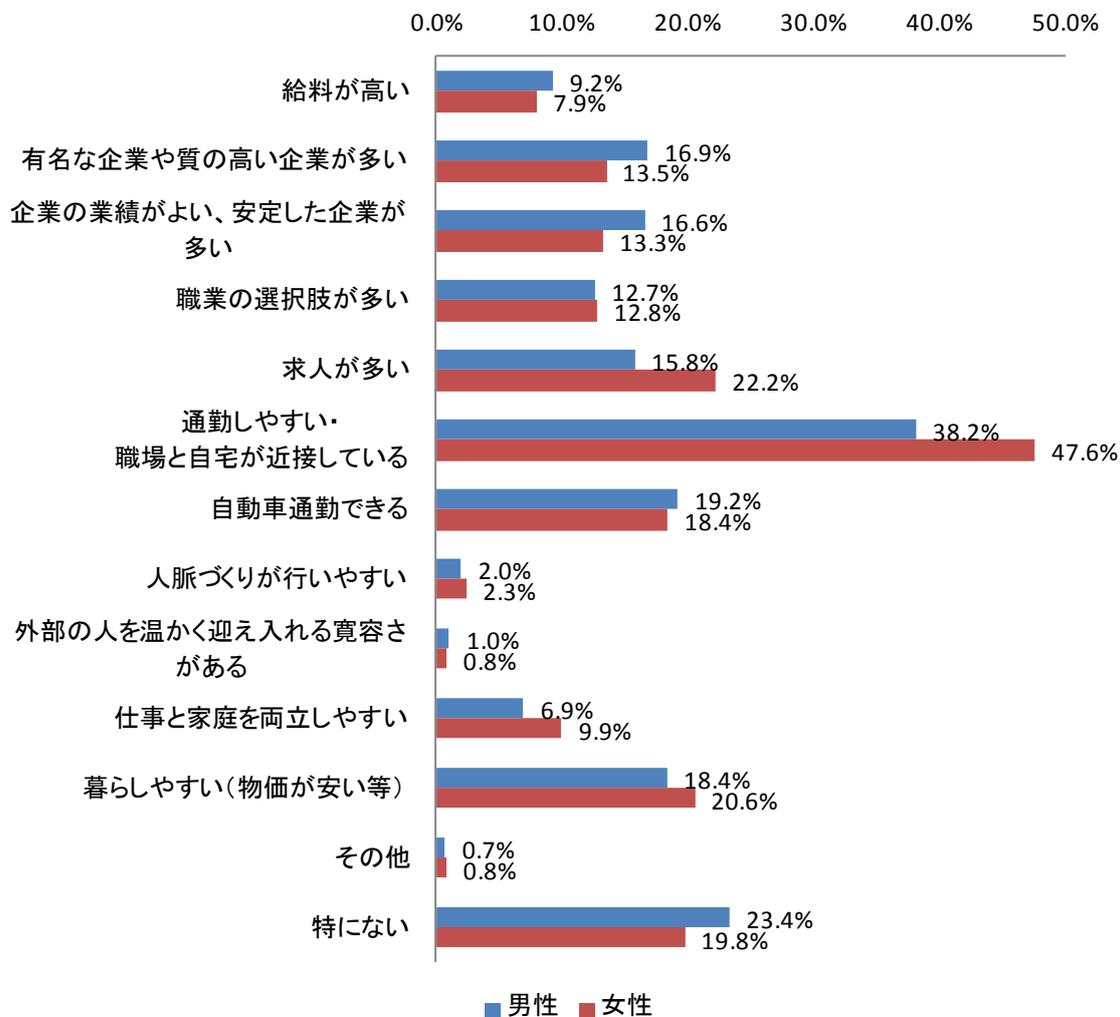
Q20 あなたは、愛知県内で働くことのメリットは、何であると思いますか。主なものを3つまで選んでください。(n=2,064)

- ・ 「通勤しやすい・職場と自宅が近接している」が42.2%で最も多い。次いで、「特にない」が21.8%であり、愛知県で働くメリットを見いだせていない。



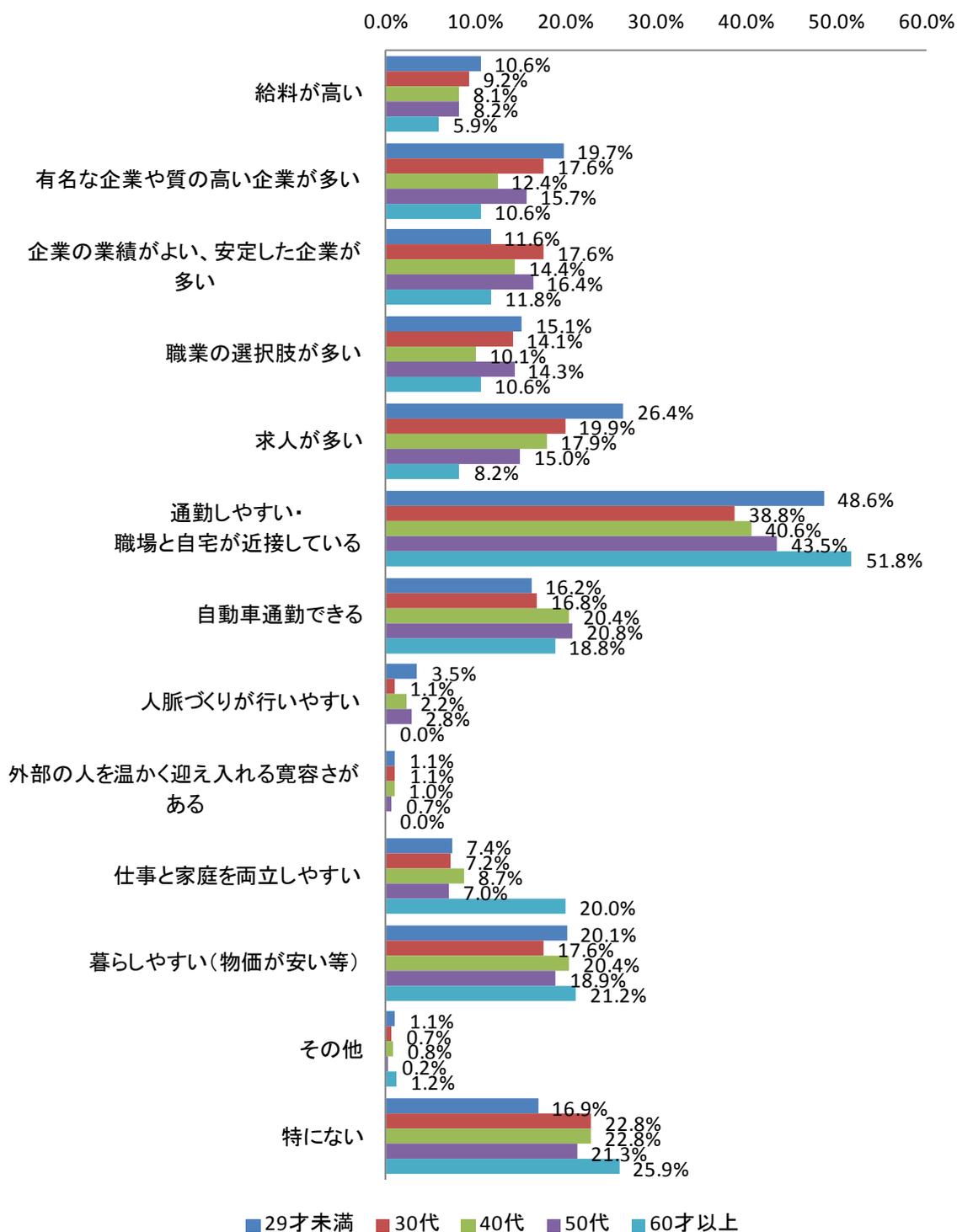
【性別】

- ・ 「女性」は、「通勤しやすい・職場と自宅が近接している」が47.6%で、「男性」の38.2%を9.6ポイント上回る。
- ・ 「男性」が「女性」を大きく上回るのが、「特にない」で、それぞれ23.4%、19.8%であり、3.6ポイントの差異が見られる。



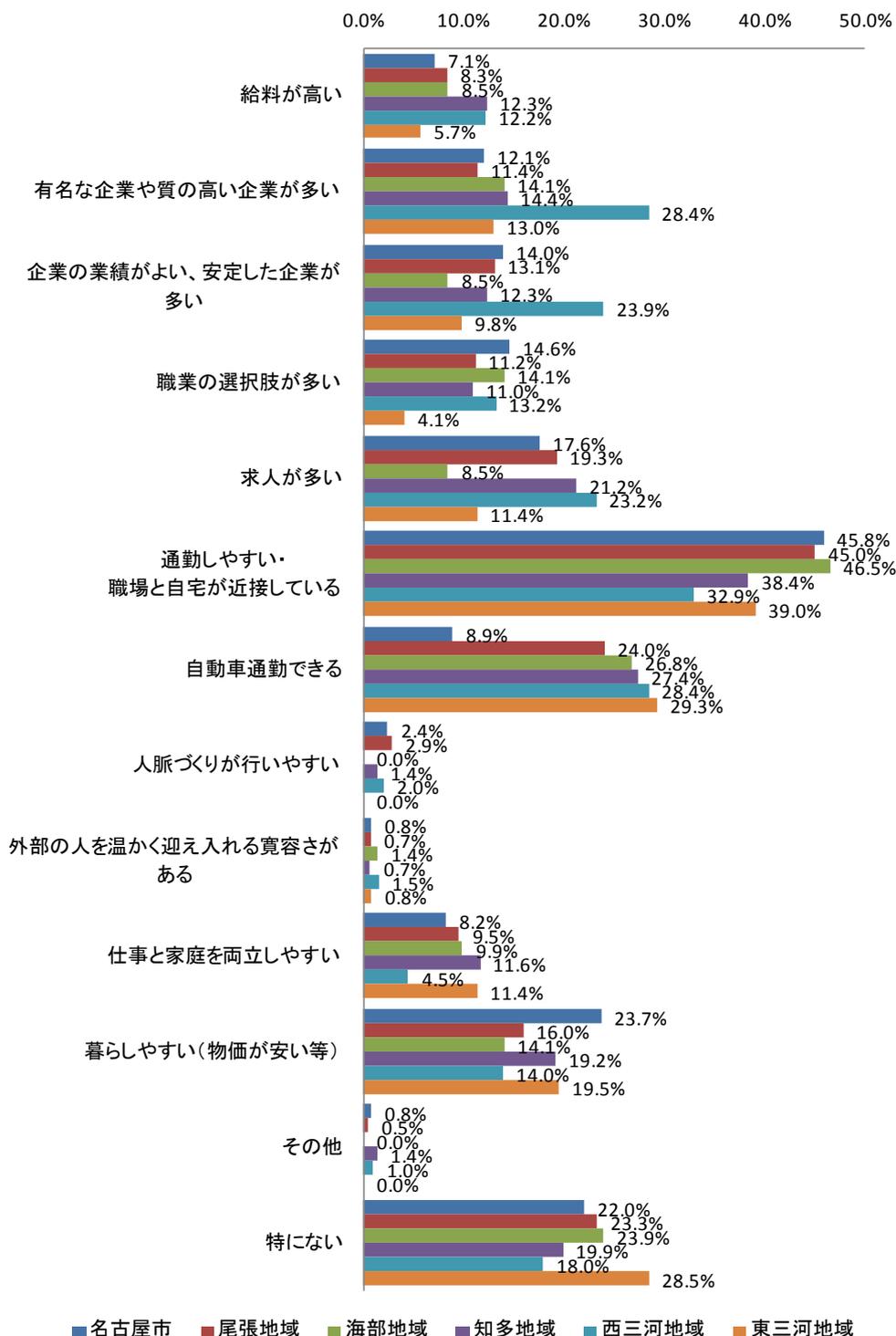
【年齢階層別】

- ・ 全ての年齢階層において、「通勤しやすい・職場と自宅が近接している」が最も多いが、特に、「60才以上（51.8%）」及び「29才未満（48.6%）」では5割程度を占める。
- ・ この他、「29才未満」では、「求人が多い」が26.4%となり、他の年齢階層と比べて突出するとともに、年齢階層が上がるにつれて高まる傾向がある。
- ・ 「特にない」は、「60才以上」で25.9%と最も高く、「29才未満」では16.9%と低い。



【地域別】

- ・ 全ての地域において、「通勤しやすい・職場と自宅が近接している」が最も多い。
- ・ 「西三河地域」は、「有名な企業や質の高い企業が多い」が28.4%、「企業の業績がよい、安定した企業が多い」が23.9%で、他の地域と比べて突出しており、自動車産業等の集積が影響していると推測できる。
- ・ 「名古屋市」は、「暮らしやすい」が23.7%で、他の地域を上回っている。
- ・ 「東三河地域」は、「特にない」が28.5%と他の地域を上回り、メリットを見いだせていない。



【前回との比較】

- ・ 2009年調査と比べて、選択肢は一致していないものの、殆どの項目において、割合が高まっている。特に、10ポイント以上増加した項目は以下のとおり。
 - 「求人が多い」11.4ポイント増（7.3%→18.6%）
 - 「有名な企業や質の高い企業が多い」9.6ポイント増（5.8%→15.4%）
 - 「通勤しやすい・職場と自宅が近接している」8.3ポイント増（33.9%→42.2%）
 - 「企業の業績がよい、安定した企業が多い」8.2ポイント増（7.1%→15.2%）
 - 「職業の選択肢が多い」6.6ポイント増（6.2%→12.7%）
- ・ 「特にない」についても、7.3%から21.8%へと14.6ポイント増加している。

